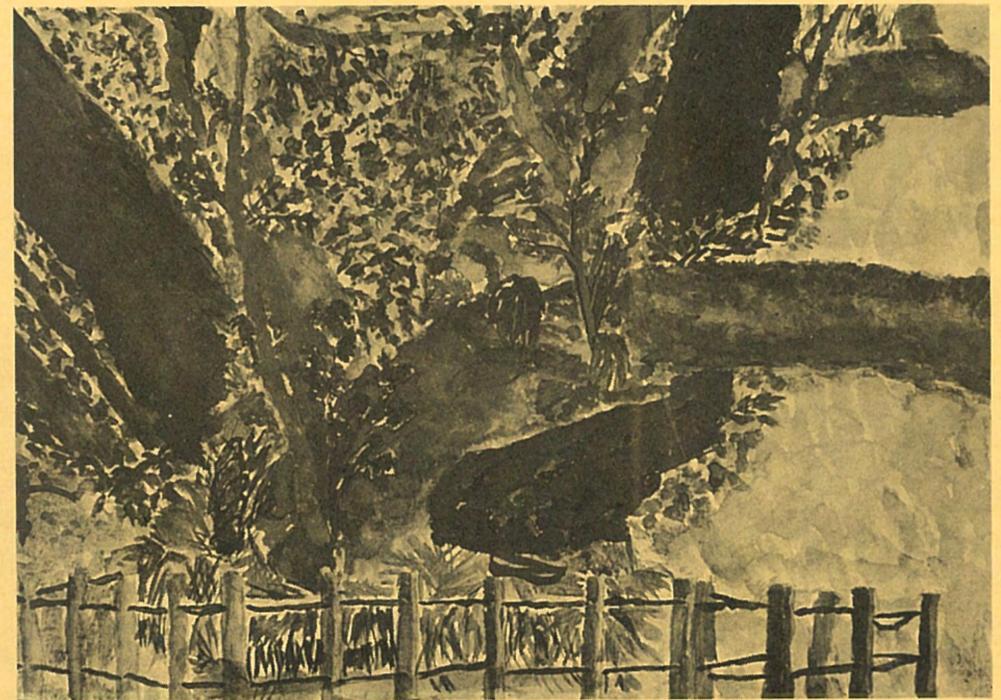


平成5・6年度 文部省小学校教育課程(音楽科)指定校

# 音楽科教育研究発表要項



平成7年2月10日(金)

八東郡八雲村立八雲小学校

伊藤

# 目 次

研究発表会日程 .....	4
会場案内図 .....	6
さわやかタイム .....	8
全校音楽集会（歌え大空へ） .....	9
ー公開授業Ⅰ 案内ー	
1年1組 「マーチであそぼう」 .....	14
2年2組 「春をむかえる音楽会」 .....	20
2年3組 「ゆめの国へさあ出発」 .....	26
4年3組 「歌のカレンダー」 .....	32
5年3組 「ザ・カーニバル」 .....	38
ー公開授業Ⅱ 案内ー	
3年3組 「お話に合う音をつくろう」 .....	46
4年1組 「弥兵衛物語を音楽で表そう」 .....	52
5年2組 「日本のふしに親しもう」 .....	58
6年2組 「行ってみよう宇宙へ」 .....	64
全体会案内	
全体会 .....	71
研究発表 .....	72
全体講評 .....	73
記念演奏 .....	74
講 演 .....	75
あいさつ・全員合唱 .....	76

## ご あ い さ つ

八雲村教育委員会

教育長 佐原 通司

本日ここに全国各地から、音楽教育の充実・発展のために活躍なさっている先生方多数をお迎えして、八雲小学校において文部省研究指定の研究発表会が開催できますことは、本村にとっても意義深く、心から感謝申し上げます。

平成4年度から実施された小学校の新教育課程もすでに3年目が終わろうとしています。新教育課程の実施にあたっては、学習指導要領の総則の冒頭部分に新たに盛り込まれた文言のとおり、子どもたちの自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければなりません。新教育課程のねらいを実現していくための「新しい学力観」の考え方も、その趣旨はほぼ理解され、今後は日々の実践の中でその考え方を生かしていく段階にあります。

こうした時期に、八雲小学校が教育課程（音楽）の文部省研究指定校となり、「子ども一人一人が自分の感性や創造性の可能性などを積極的に発揮して音楽をつくって表現しようとする能力と感性を育てるためには教材、学習過程、指導方法、評価などについてどのように工夫すればよいか」とする研究主題をかかげ、2年間にわたる研究実践に取り組んできたことは誠に意義深いものであります。

私は、ときどき八雲小学校を訪れますが、最近変わってきたなと思うことが2つあります。その1つは、学校の雰囲気比以前にも増して生き生きしていることであります。学校に入るとたくさんの花と、教室から流れてくる歌声、そして子どもたちの明るい笑顔とあいさつに迎えられる。何かに向かって進んでいる息吹を感じます。その2つは、授業の風景についてであります。音楽の授業を見ると子どもたちはいくつかのグループに分かれ、自分で作った手作り楽器や、トライアングル、木琴、ボンゴなど様々な楽器を使って物語に合う音づくりをしています。子どもたちは、お互いに音を聴き合い、音を出すタイミング、強弱、速さなどを工夫しながら何度も何度も試奏しています。2人の教師（T・T）は各グループを回りながら励ましたり、助言したりしています。子ども一人一人のよさや可能性を生かす授業、子どもの側に立った授業へと変わってきたことを感じます。

感性豊かな子どもの育成とは、よいもの、美しいもの、崇高なものに素直な心で感動できる子どもを育成することであり、自らを高めていこうとする自己教育の原点となるものであります。また、創造性や表現能力の育成は、21世紀に生きる子どもたち、国際社会に生きる子どもたちにとって重要な資質となるものであります。八雲小学校の研究が本村の音楽文化創造の契機となり、さらに全国の音楽教育の向上につながることを願ってやみません。最後になりましたが、本研究発表会を開催するにあたり、ご指導、ご援助いただきました文部省教科調査官金本正武先生をはじめ、関係各位に心より御礼申し上げますとともに、ご参会の先生方のご活躍、ご発展を祈念してあいさついたします。

## ご あ い さ つ

八雲村八雲小学校

校長 森 泰

本日は、寒さ厳しき中を、全国各地から日ごろ音楽教育に熱心に取り組んでおられる先生方をお迎えして、ここに研究の一端を公開し、ご指導をいただけますことを大変光栄に思うと共に心から感謝申し上げます。

学校は、子どものすみかであり、すみかの主人公は子どもたちです。そういう意味でわたしたちは、子どもの目と同じ高さに立って学校のくらしのすべてをとらえ直していかなければならないと考えています。

幸い、本校は平成5・6年度の2年間にわたって、文部省小学校教育課程研究指定校（音楽）としてご指導いただけることとなりました。

「勉強いっぱい、花いっぱい、友達いっぱい、歌声あふれる八雲小」（本校の目指す学校像）は、子どもたちを温かく見守る教師の支援のもとで、子どもたち自らが、つくりあげていくことができると思います。

本校は、音楽科を通してその願いを実現したいと考えていますが、取り組みの土台となるものは、美しいものを素直に美しいと感じる豊かな感性をもつ子どもづくりと、一人一人を温かくつつみこむ学級経営にあると考えています。

平成5年度は、全教職員が子どもと共に歌う取り組みや、音楽の授業研究を通して、子ども理解に立った授業の改善に努力してきました。

平成6年度は、子どもたち一人一人が取り組む学習過程と、個に応じた指導と評価の一体化を複数の教師の協力的な指導とからめて考えてきました。

今、子どもたちは少しずつではありますが、明るい挨拶をはじめとして、歌うことに喜びをもち、積極的に自分のくらしをつくりだそうという構えを見せつつあります。「共に歌う」ことを通して、ふんわりした温かさをもつ学級も増えてきました。

2年間という短い期間の実践ではありましたが、この研究を新たなる出発点として、今後とも皆様方のご指導を賜りながら新しい教育のあり方について実践を重ねていきたいと考えております。ご参会の先生方におかれましては、どうぞ遠慮のないご指導、ご助言をお願いいたします。

終わりにになりましたが、本校が音楽科研究発表会を開催するにあたりまして、文部省初等中等教育局小学校課教科調査官 金本正武先生には、ご多忙の中を遠路ご来校くださり、私どもの研究に対して、きめ細やかなるご指導とご助言をいただき、進むべき道を明らかにしてくださいました。また、島根県教育委員会・松江教育事務所・全日本音楽教育研究会・島根県音楽連盟・八束郡教育研究会をはじめ、関係諸機関及び音楽関係の先生方に心あたたまご指導をいただきました。深く感謝申し上げます。さらに、村当局・PTAの皆様方の物心両面にわたるご協力、誠にありがとうございました。

## 研究発表会日程

8:30	9:00	9:15	9:30	10:15	10:30	11:15	11:35	12:20
受付	さわやか タイム		全校 音楽集会		授業 I		授業 II	

### 1. さわやかタイム (9:00～9:15)

各学級	さわやかタイム	各学級担任
-----	---------	-------

### 2. 全校音楽集会 (9:30～10:15)

全学年一斉 体育館	－ひびけ、ひろがれ 意字の里－ 全校合唱「光の中へさあ君と」他	全教師
--------------	------------------------------------	-----

### 3. 公開授業 I (10:30～11:15)

年組	題 材	授 業 者
1年1組	マーチであそぼう	吉廣 里恵
2年2組	春をむかえる音楽会	竹田喜久江 勝部恵美子
2年3組	ゆめの国へさあ出発!	荒川 仁美
4年3組	歌のカレンダー	渡部 美紀
5年3組	ザ・カーニバル	伊藤 紀子 新田 紀久

### 4. 公開授業 II (11:35～12:20)

年組	題 材	授 業 者
3年3組	お話に合う音をつくろう	平塚 靖男
4年1組	弥兵衛物語を音楽で表そう	佐藤みゆき 伊藤 紀子
5年2組	日本のふしに親しもう	林 和博
6年2組	行ってみよう宇宙へ	勝部恵美子

12:20	13:00	13:30	14:00	14:10	14:20	14:35	15:45	15:50
昼食	全体会	研究発表	全体 講評	記念 演奏		講 演	全員合唱	あいさつ

### 5. 昼 食 (12:20～13:00)

### 6. 全体会 (13:00～13:20)

主催者あいさつ 島根県教育庁学校教育課課長 小田 繁 俊  
 歓迎のことば 八雲村村長 石倉 徳 章

### 7. 研究発表 (13:30～14:00)

・学校の概要と研究の基本構想 教務主任 女鹿田 武  
 ・研究の内容 研究主任 沢 次代

### 8. 全体講評 (14:00～14:10)

島根県教育庁学校教育課長補佐 川津 啓 義 先生

### 9. 記念講演 (14:10～14:20)

金管バンド部 指揮 勝部恵美子

### 10. 講 演 (14:35～15:45)

演題「豊かな文化を創造する音楽教育」  
 講師 文部省初等中等教育局小学校課 教科調査官  
 金本 正 武 先生

### 11. あいさつ (15:45～15:50)

お 礼 八雲村立八雲小学校長 森 泰  
 全員合唱 (PTA ママさんコーラスとともに) 指揮 勝部恵美子



さわやかタイム（朝の活動）

各 教 室

（9：00～9：15）

全 校 音 楽 集 会

－ひびけ ひろがれ 意宇の里－

（9：30～10：15）

## 第5回全校音楽集会

平成7年2月10日 1校時

場 所 体育館

1. 集会のテーマ 「ひびけ ひろがれ 意宇の里」

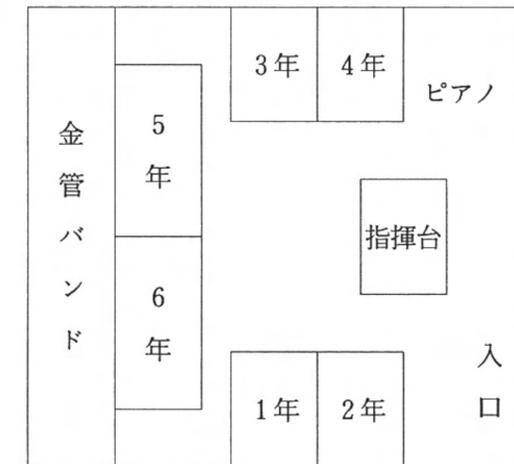
2. ねらい

- 歌に思いを込めて表現するようにする。
- 全校児童が、心をひとつに歌いあげ、成就感をもつようにする。
- 各学年の歌声を聴き、音楽の楽しさを味わうようにする。

3. 活動の流れ

- ①入場 6→5→3→4→1→2年 ※走って入らないように音楽に合わせて  
『友だち讃歌』を歌いながら入場（伴奏：金管バンド）

～音楽委員会といっしょに  
身体表現をしながら歌う～



②歌であいさつ

(6年)(5年)(4年)(3年)(1～6年)

「ハロー」「ハロー」「ハロー」「ハロー」「やあ、こんにちはごきげんいかが」

「ハロー」「ハロー」「ハロー」「ハロー」

※1、2年は、好きなパートを歌う。

③全校合唱

『光の中へさあ君と』 (伴奏：金管バンド)

『校歌』 (伴奏：ピアノ)

④学年発表

(1)3年生 『気球よぼくらのゆめのせて』

(2)5年生 『ひろい世界へ』

(3)1、2年生 『地球はみんなのものなんだ』

(4)年生 『夢の宇宙船』

(5)6年生 『Let's search for Tomorrow』

⑤今月の歌

『夢の世界を』

⑥お別れの歌

『歌よありがとう』を歌う

⑦退場

2→1→4→3→5→6年

「グッディ グッバイ」をルルルで歌いながら退場する。

●係分担

〔児童〕

放送→放送委員会 会場設営→体育委員会 全面飾り付け→運営委員会

横・後・入口飾り付け→図書・生活・親善委員会

校舎内→広報・保健・給食委員会 校舎外→飼育栽培・環境委員会

総司会→音楽委員会

〔教員〕

アンケート→集会部、

感想文、ビデオ、写真、録音→資料環境部

その他の背面掲示(歌詞)→委員会担当以外

## 全校音楽集会活動計画

《ひびけ ひろがれ 意宇の里》

活動の流れ	司会の言葉	子どもの活動	伴奏
(1)入場	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで「友だち讃歌」を歌いましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金管バンドの演奏に合わせて、「友だち讃歌」をルルルで歌いながら入場する。</li> <li>3番まで歌う。</li> </ul>	金管バンド
(2)歌で あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌であいさつをしましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ハローハロー」を歌う。</li> </ul>	ピアノ
(3)全校合唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年初めての全校音楽集会です。光り輝く年になるように思いを込めて「光の中へさあ君と」を歌いましょう。</li> <li>伴奏は、金管バンドの皆さんです。</li> <li>意宇川を流れる水の音 広野をわたる風の音 八雲の山のうすがすみ 星上山の月のいろ 豊かな自然につつまれた意宇の里。</li> <li>八雲小学校へようこそいらっしゃいました。わたしたちの校歌を聴いてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「光の中へさあ君と」を歌う。二部合唱</li> <li>校歌を歌う。二部合唱</li> <li>歌い終わったら全員すわる。</li> </ul>	金管バンド  ピアノ
(4)学年発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぼくらの夢をのせて赤い気球がのぼっていくよ。宇宙の果てまで飛んで行きたいなあ。「気球よぼくらのゆめのせて」</li> <li>手と手をつなぎ、心をつなぎ歌を歌いながら。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年 二部合唱 リコーダー 「気球よぼくらのゆめのせて」を歌う。</li> <li>5年 三部合唱 「ひろい世界へ」を歌う。</li> </ul>	ピアノ  ピアノ

# 公開授業 I

	<p>「ひろい世界へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• さあ耳を澄ましてごらん。</li> <li>• みんなで声を合わせて歌っているよ。</li> </ul> <p>「地球はみんなのものなんだ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1、2年</li> </ul> <p>「地球はみんなのものなんだ」を歌う。</p> <p>1回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1、2年交互唱</li> <li>• 3年手拍子</li> </ul> <p>間奏</p> <p>2回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 独唱(ステージ上)</li> <li>• リズム楽器・全校の手拍子へ広げる。</li> <li>• 1、2年は、フロアで踊る。</li> </ul>	<p>ピアノ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 空をこえて船が進みます。見知らぬ宇宙へ飛び出そう。</li> </ul> <p>「夢の宇宙船」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 明日への限りない期待をふくらませて、ぼくたちのすばらしい希望と夢を</li> </ul> <p>「Let's search for Tomorrow」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4年 二部合唱</li> </ul> <p>「夢の宇宙船」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 6年 三部合唱</li> </ul> <p>「Let's search for Tomorrow」を歌う。</p>	<p>ピアノ</p>
(5)今月の歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私たちの歌声は、意宇の里へひびき、広がっていきます。</li> <li>• みんなで「夢の世界を」を歌いましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全校の子ども、教職員の交互唱</li> </ul> <p>「夢の世界を」を歌う。</p> <p>三部合唱</p>	
(6)お別れの歌		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「歌よありがとう」を歌う。二部合唱</li> </ul>	<p>ピアノ</p>
(7)退場	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グッバイ</li> <li>• チャオ</li> <li>• アンニョン</li> <li>• アディオス</li> <li>• ツァイ チェン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「グッディ グッバイ」をルルルで歌いながら退場する。</li> <li>• 参会者もいっしょに歌ってもらうように呼びかける。</li> </ul>	<p>ピアノ</p>

# 公開授業 I

(10:30~11:15)

年 組	題 材	授 業 者	場 所
1年1組	マーチであそぼう	吉廣 里恵	1の1教室 ホ ー ル
2年2組	春をむかえる音楽会	竹田喜久江 勝部恵美子	2の2教室 ホ ー ル
2年3組	ゆめの国へ さあ出発	荒川 仁美	第2音楽室
4年3組	歌のカレンダー	渡部 美紀	図 書 室
5年3組	ザ・カーニバル	新田 紀久 伊藤 紀子	第1音楽室

## 第1学年1組 音楽科学習指導案

指導者 吉廣 里恵

1. 題材 マーチであそぼう

### 2. 題材設定の意図

(1) 低学年の子どもたちは活動的で、曲に合わせて自然に体を動かしたり、曲を聴いて登場人物になった気分で身体表現をしたりするなど、体全体で音楽を感じ取ろうとする。またリズムに合わせて手拍子を打ったり、歌詞のもつリズムを口ずさんだりするなどリズムや旋律の動きに敏感に反応し、リズムに対する基礎的な感覚が最も発達する時期である。

このような時期に、全身を使ってリズムを感じ取ったり、拍の流れにのって表現したりする活動を組んでいけば、さらに拍感やリズム感を養っていけないのではないかと考え、「マーチであそぼう」を設定した。

マーチは強弱がはっきりしており、聴いていても軽快感や迫力感がある。こうした特徴をもつマーチを歌ったり、身体表現をしたりすることは、楽しみながら自然に拍の流れを感じ取ることになり、拍感を育てるのに適していると考え。また、こうした活動を通して、音楽を楽しむ心を育てていきたいと考えている。

(2) 本学級の子どもたちは、歌うことが好きで、休み時間などに2、3人の友達と一緒に歌ったり、新しい曲や既習曲を聴いては口ずさんだりして楽しんでいる。また、曲に合わせて自然に身体反応をしたり、身体表現をしたりすることを好んでいる。特に、指揮をすることや踊ることが好きで、指揮をしながら拍手を見つけたり、のりやすい曲に合わせて自分たちで考えたダンスを踊ったりして、体全体で拍やリズムを感じ取っていかうとする子どもたちの姿も出てきた。

これまでの学習では、「リズムに合わせて」の題材で、2拍子や3拍子の拍の流れにのって身体表現や打楽器でのリズム打ちなどの表現をしてきた。バッテリーでのリズム打ちを取り入れたことにより、友達と合わせる楽しさを味わったり、リズムにのって打とうとしたりする子どもたちの姿が見られた。「リズムであそぼう」の題材では、曲に合うリズムをつくったり、それを打楽器で打ったりする活動に取り組んだ。このようなリズム遊びの活動を通して、リズム打ちの楽しさや拍の流れにのって表現する楽しさを味わってきている。また、打楽器の扱いや自分なりの表現を楽しむということにも少しずつ慣れてきている。

(3) 指導にあたっては、音楽の中に溶け込みながら、曲全体を通して流れる拍感やマーチを特徴付けているリズムを全身で感じ取ってマーチの楽しさを味わうようにしたいと考えている。そのために、鑑賞、身体表現（行進やリズム打ちなど）、リズム遊び、歌唱、マーチの演奏などの多様な活動を授業の流れに組み込み、活動の連続性を大切に展開していきたいと考える。

まず、マーチと出会う場では、「アメリカンパトロール」他、子どもたちが楽曲の気分

を感じ取りやすく、親しみやすいマーチを教材とした。ここでは、それぞれのマーチがもつ気分を感じ取って聴いたり、マーチに合わせて行進をしたり、様子を思い浮かべて身体表現をしたりすることで、曲に合わせて歩く楽しさや心地よさや拍にのる感覚を体感するようにしたい。そして、基本的なマーチのリズムを提示し、マーチに合わせてバッテリーで打ったり、打楽器で打ったりすることを通してマーチに親しむようにしたい。その際、動物の動きの特徴や行進する様子をイメージして活動するようにする。イメージする動物は、子どもたちが挙げた中から、「動きがどっしりとして大きい」「スピード感がある」「のんびりとしている」「かわいらしい」などの観点から選ぶようにする。そうすることで、動物のイメージがリズム打ちや行進におけるテンポ、音色、音量などに表れてくるだろうと考える。このような活動を通して、「マーチに合わせてリズムを打ったり、行進をしたりすると楽しいなあ。」という思いをもつようにしたい。

次に、拍の流れにのった表現を楽しむ場では、「こいぬのマーチ」を教材とした。ここでは、身体表現などを通して感受したマーチのリズム感や拍感を生かして、自分たちでマーチを演奏する楽しさを味わうようにする。その際、歌詞、旋律、リズム、楽曲の気分から感受した自分なりの「こいぬのマーチ」に対するイメージなどを大切にしながら、楽器の選び方や打ち方の工夫をする過程で、適切な助言をしていく考えである。

終わりに、「おもちゃの兵隊」を教材とし、これまでに感じ取った拍感やリズム感を生かしリズム打ち、行進などの活動を通して、より一層マーチに親しんでいけるようにしたい。

### 3. 題材の目標

- ・身体表現をしながら、マーチを聴き楽しもうとする。
- ・マーチの軽快なリズムや拍の流れを感じ取って自分なりの音楽表現をする。
- ・拍の流れにのって、身体表現をしながら聴く。

### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- ・拍やマーチのリズムを感じ取って、身体表現をする。〈マーチに合わせて行進をする。マーチのリズムを打つ。動物をイメージして、マーチのリズムを打ったり行進をしたりする。〉
- ・拍の流れにのって、マーチを演奏する。〈「こいぬのマーチ」のリズム伴奏をしたり、合唱奏をしたりする。〉
- ・拍の流れにのって聴く。〈おもちゃの兵隊などの登場人物になって行進をしたり、楽器を演奏する真似をしたりしながら聴く。〉

### 5. 教材

- (1) 「こいぬのマーチ」 久野静夫 作詞 外国曲  
楽曲の形式はA ( a a' ) B ( b b' ) の2部形式である。旋律はド～ラの6音だけで

構成されており、全体は拍の流れと同じ四部音符による単純なリズム構成となっている。  
したがって、リズム伴奏を工夫したり、鍵盤ハーモニカなどでの旋律奏に合わせて合奏を楽しむことができる教材である。

(2) 「アメリカンパトロール」 ミーチャム 作曲

明るく軽快な行進曲である。全曲を通して小太鼓の小気味よいリズムが流れ、軽快なマーチの雰囲気を感じ上げている。また、マーチのリズムがはっきりとしており、足踏みや行進、リズム打ちなどの活動を通して拍の流れやマーチの楽しい気分を体で感じ取って表現することができる教材である。

(3) 「おもちゃの兵隊」 イェッセル 作

この曲は行進曲風の描写音楽である。演奏形態は管弦楽で、軽快な行進曲のリズムで構成されている。トランペットのファンファーレに始まる序奏と、おもちゃの兵隊たちがあわてておもちゃ箱に帰っていくような感じのコーダなどから楽しい情景や登場人物の様子を思い浮かべて聴くことができる教材である。

(4) 「ミッキーマウスマーチ」 「オーレチャンプ」 「さんぽ」

子どもたちが聴き慣れた曲である。そのため、行進やリズム打ちなどを通してマーチの楽しさやマーチのリズムを感じ取り、マーチへの関心を高めるために適した教材である。

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 身体表現をしながら、マーチを楽しもうとしている。 (観点①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーチのリズムを感じ取って、楽しく歌ったり、身体表現をしたりしようとしている。</li> <li>マーチに合わせて、楽しくリズム打ちをしようとしている。</li> </ul>	身体表現 表情
イ. マーチの軽快なリズムを感じ取って、身体表現を工夫している。 (観点②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーチを聴いて特徴的なリズムを感じ取り、身体表現を工夫している。</li> <li>動物をイメージして、リズム打ちを工夫している。</li> </ul>	身体表現 グループ活動の様子
ウ. マーチのリズムを感じ取って拍の流れによって身体表現をしたり、演奏をしている。 (観点③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍の流れによってリズムを打ったり演奏をしたりしている。</li> </ul>	身体表現 演奏
エ. 拍の流れによって、身体表現をしながら聴いている。 (観点④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍の流れによって登場人物になりきって行進をしながら聴いている。</li> </ul>	身体表現 身体反応

7. 題材指導計画 (6時間扱い 本時3/6)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第一 次	マーチに合わせて身体表現をしながら、マーチのリズムを感じ取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「アメリカンパトロール」他、いろいろなマーチを聴き、自由に身体表現をしたり、リズム打ちをしたりする。</li> <li>楽曲を聴いて、思い浮かべた様子を発表する。</li> <li>行進をしたり、楽器を演奏するまねをしたりしながら、マーチを聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーチのリズムを感じ取って楽しく歌ったり、身体表現をしたりしようとしている。 (規準ア) (身体表現、表情)</li> <li>マーチを聴いてリズムを感じ取り、身体表現を工夫している。 (規準イ) (身体表現)</li> <li>動物をイメージして、リズム打ちを工夫している。 (規準イ) (身体表現、グループ活動の様子)</li> </ul>	アメリカンパトロール
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろなマーチに合わせて行進をしたり、リズム打ちをしたりする。</li> <li>絵譜を見て、マーチのリズムを打つ。</li> <li>打楽器を選んで、バッテリーでマーチのリズムを打つ。</li> <li>動物が行進をする様子について話し合う。</li> <li>動物が行進をする絵を見て、イメージを膨らます。</li> </ul>		
第二 次	マーチの拍を感じながら、身体表現をしたり、演奏をしたりする。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに動物をイメージしてマーチのリズムを打ったり、行進をしたりする。</li> <li>友達のグループのリズム打ちや行進を聴いたり、見たりする。</li> <li>リズム打ちに合わせて、いろいろな動物になった気分であそんで行進をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物をイメージして、リズム打ちを工夫している。 (規準イ) (身体表現、グループ活動の様子)</li> <li>拍の流れによって、リズムを打ったり、演奏をしたりしている。 (規準ウ) (身体表現、演奏)</li> </ul>	こいぬのマーチ
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こいぬのマーチ」の範唱を聴いたり、歌詞をもとに子犬の様子について話し合ったりして、子犬のイメージをふくらませて歌う。</li> <li>子犬になった気分で行進をしたり曲に合わせてマーチのリズムをバッテリーで打ったりする。</li> <li>鍵盤ハーモニカ奏をする。</li> <li>「こいぬのマーチ」のイメージに合ったリズム伴奏の仕方をグループで工夫する。</li> </ul>		
第三 次	拍の流れによって、身体表現をしながら聴く。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のグループのリズム伴奏を聴く。</li> <li>リズム伴奏と鍵盤ハーモニカ奏を合わせる。</li> <li>みんなで、合唱奏をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拍の流れによって登場人物になりきって行進をしながら聴いている。 (規準エ) (身体表現、身体反応)</li> </ul>	おもちゃの兵隊
		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おもちゃの兵隊」を身体反応をしながら聴く。</li> <li>楽曲を聴いて、思ったことや感じたことを発表する。</li> <li>おもちゃの兵隊になって、2拍子のリズムに合わせて、マーチのリズムを打ちながら聴く。</li> <li>曲に合わせて、マーチのリズムを打ちながら聴く。</li> <li>好きな楽器の模擬演奏をしながら聴く。</li> <li>おもちゃの兵隊になって、グループごとに行進をする。</li> </ul>		

8. 本時の展開 (第一次 3時)

◦目標 動物をイメージして、マーチのリズムを打ったり、楽しく行進をしたりする。

学 習 過 程	子 ど も の 活 動
1. 楽しく学習していく雰囲気をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• “たんけんの国めぐり”をし、楽しく歌ったり、身体表現をしたりする。 うたの国 しきの国 マーチの国</li> </ul>
2. めあてを確かにして、学習への期待感をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ○○が行進をしている絵を見る。</li> <li>• めあてをつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○○さんが歩けるようにマーチのリズムを打ったり、○○さんになって歩いたりしよう。</p> </div>
3. 拍を感じて表現を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループごとに、動物をイメージしてマーチのリズムを打ったり、行進をしたりする。</li> <li>• 動物を決める。</li> <li>• 動物のイメージを話し合う。</li> <li>• リズム打ちをする楽器を選ぶ。</li> <li>• リズム打ちの役と行進の役に分かれて活動する。</li> <li>• 違う動物の国へ行って活動をする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>
4. 友達の表現を聴き合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達のグループのリズム打ちを聴いたり、行進の様子を見たりして、感想を発表し合う。</li> </ul>
5. みんなで拍にのった表現を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• それぞれの動物のイメージしたリズム打ちに合わせて、その動物になってみんなで行進をする。</li> </ul>

めざす子どもの姿	教師のかかわりと評価(☆)
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生き生きとした表情で歌ったり、音楽に合わせて伸び伸びと体を動かしたりしている姿</li> <li>• やってみたい動物の名前や動物のイメージをつぶやく姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 曲に合わせて隊形を変えたり、指揮や行進など体全体を使ったりしながら教師も一緒になって活動することで、楽しく学習を始めていく雰囲気づくりをする。</li> <li>• 動物の絵を見ることで、動物や、動物が行進しているイメージが膨らむようにし、「自分たちでやってみたい」という意欲をもつようにする。</li> <li>• 前時に打った「1の1マーチのリズム」を基本のリズムとして提示し、「このリズムでもいいし、自分たちでつくってもいいよ。」と助言することで、子どもたちが自分に合った活動を楽しむことができるようにする。</li> <li>• 動物のお面を用意することで、意欲を支えるようにする。</li> <li>• 多様な楽器やばちを用意し、子どもたちが多様な表現ができるようにする。</li> <li>• 教師が子どもたちの動物のイメージを把握し、一緒に楽器を選んだり、試奏をしたりすることで、イメージに合った表現ができるようにする。</li> <li>• リズム打ちと行進が合っていなかったり、拍の流れにのっていなかったりする場合には、一緒に行進や拍打ちをすることで、拍の流れを感じ取れるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 動物をイメージして自分の考えを言ったり、友達の意見を聞いたりして、協力して動物のマーチを表現しようとする姿</li> <li>• 動物のイメージをもとに、友達と一緒にマーチのリズムを試奏したり、行進の仕方を工夫したりしようとしている姿</li> <li>• 友達の発表で動物のイメージが表れているところを見つけようと一生懸命聴いている姿</li> <li>• いろいろな動物になることや、みんなでリズム打ちや行進を合わせることを楽しんでいる姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆動物をイメージして、リズム打ちを工夫している。 〈規準イ〉 (身体表現、グループ活動の様子)</li> <li>• 発表においては、動物のイメージに合った歩き方やリズム打ちのテンポ、音色、音量などが工夫されているグループを取り上げたり、よさをみつけられるような助言をしたりして、工夫に気付くようにする。</li> <li>• 子どものリクエストで演奏係を決めるようにし、みんなで活動する楽しさや拍にのる楽しさをさらに感じ取れるようにする。</li> </ul>

## 第2学年2組 音楽科学習指導案

指導者 竹田喜久江 (T<sub>1</sub>)

指導者 勝部恵美子 (T<sub>2</sub>)

### 1. 題材 春をむかえる音楽会

#### 2. 題材設定の意図

(1) 2年生もこの時期になると、ただ単に元気よく精一杯声を出して歌うことから脱皮し、頭声的発声を意識して、少しずつ明るく澄んだ声へと変化が出てきている。また、友達の声や演奏にも関心をもつようになり、多様な音楽活動が可能になってくる。

このような時期に、さまざまな楽曲に出会い、身体表現をしたり歌い方の工夫をしたりするなどの表現活動を行うことによって、みんなで一つの作品をつくりあげていく経験を行うことは、自ら進んで表現しようとする意欲や態度が育つ素地となるものであると考える。

そこで本題材では、「春をむかえる音楽会」として、わらべうた、冬、春の歌を中心に構成し、自分たちの手で作る音楽会を計画した。

この活動を通して、歌うことの楽しさを感じ取る心や表現力をより豊かに育てていきたいと考える。

(2) 子どもたちは、音楽の学習やさわやかタイム・音楽集会を通して、歌うことがたいへん好きになってきた。範唱を聴くとすぐに2、3人のグループで輪になって歌ったり、体を動かしたりして、友達といっしょに楽しそうに歌っている姿が見られる。いろいろな楽曲を「もっときれいな声で歌いたい。」という意欲もうかがえるようになってきた。

音楽学習の歌唱表現においては、明るく柔らかい声を出すことをめあてに取り組んできたところ、だいぶん明るい声が出せるようになってきた。音程がしっかりしていない子どもも、友達の声を聴きながら歌うことにより、正しく歌えるようになろうと、一生けんめい取り組んでいるところである。

また、お互いに助け合うようになり、グループ活動も活発になってきた。小グループで歌い方を工夫したり、身体表現をしたり、楽器の演奏をしたりなどの経験を重ねるたびに音楽学習に喜んで取り組む姿が見られるようになってきた。

(3) 本学級では、ティームティーチングによる授業に取り組んでいる。本題材では、グループ活動の支援を学級担任が、そして歌声や歌い方の工夫の支援を専科が主となって指導に当たる。そうすることで、一人一人のよさを生かしたグループ活動ができ、子どもたちにとって、満足のできる表現へと高めていけるものと思われる。

指導にあたっては、子どもたちが楽曲からとらえたイメージを生かして、「この曲はこんなふうになりたい。」という思いを大切にしていきたい。

まず、冬や春の季節感をとらえていく場では、鑑賞活動を中心にすえながら、絵や写真を見たり、情景を話し合ったりしながら、季節のイメージを広げていくようにしたい。

冬や春の季節感を感じ取り、歌い方を工夫していく場では、それぞれの楽曲から感じ取っ

た気分が、歌声や歌い方に表れるようにしていきたい。

冬をイメージする教材には、昔から日本の各地で歌いつがれてきたわらべうたを取り入れることにした。子どもらしい素朴な歌い方、手遊び、身体表現の工夫など、楽しんで表現ができると考えたからである。

春をイメージする教材では、歌詞、旋律、リズムから、春をむかえる喜びを感じ取り、伸び伸びと楽しく歌えるようにしていきたい。

ここでは、森の奥の穴の中で、じっとしているくまさんをなぐさめようという設定で、「春をむかえる音楽会」を計画した。5つのグループを作り、各グループが歌いたい歌を1～2曲選び、「くまさんが喜ぶような音楽会をひらいて楽しもう」というめあてのもとに、子どもたちが生き生きと表現することを願っている。

そして、一人一人が自ら表現を工夫することや音楽会を開くことで、創造的な音楽活動を行うための素地を育てていきたいと考えている。

#### 3. 題材の目標

- わらべうたや冬、春の歌を歌って、イメージを広げて自分たちの「春をむかえる音楽会」をつくるようにする。
- 季節に合った情景や気持ちを感じ取り、楽しく歌う。
- 冬や春の様子を思い浮かべながら聴いたり、身体表現をしたりしながら楽しく聴く。

#### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- 冬、春の楽曲の気分を感じ取る。〈身体反応をしながら聴く。〉
- 歌詞の表す情景や気持ちを感じ取って表現する。〈情景を話し合う。歌い方を工夫する。身体表現をする。〉
- 友達の歌い方のよさを味わう。〈グループ活動、音楽会〉

#### 5. 教材

##### (1) 冬の歌唱教材 「こぐまの二月」

歌詞から冬の静かな様子を想像したり、歌詞を工夫したりすることで、春を待ちわびる思いが感じ取られる教材である。

##### (2) わらべうた 「ずいずいずっころばし」「あんたがたどこさ」「じゃがいも」など

くらしから生まれたわらべうたは、手遊びとともに親しみ、そこから多様な身体表現を引き出し工夫しやすい。また、他の歌唱教材とは違う楽曲の気分を感じ取った歌い方が工夫できる教材である。

##### (3) 春の歌唱教材 「春がきた」「春っていいね」「お花やさん」「春は友だち」

歌詞や旋律から、春の明るい気分や喜びが感じ取られる楽曲である。また、リズムの反復や擬声語や擬態語の反復に気を付けて歌い方を工夫することで、春の楽しい様子を表現できる教材である。

(4) 冬を連想する鑑賞教材 「冬の夕ぐれ」 プロコフィエフ 作曲

冬の様子がしみじみと感じ取られる鑑賞教材である。静かな様子を思い浮かべることで、冬の情景に浸ることができる。

(5) 春を連想する鑑賞教材

「くまばちはとぶ」 リムスキーコルサコフ 作曲

「春のうた」 メンデルスゾーン 作曲

「春の声」 ヨハン・シュトラウス 作曲

春の様子を思い浮かべ、暖かい気分が感じ取られる鑑賞教材である。「冬の夕ぐれ」を鑑賞してから聴くと、春を待つ気持ちが高まっていくと思われる。

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 曲の気分を感じ取って、楽しく歌ったり、聴いたりしようとしている。 (観点①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬や春の様子を思い浮かべ、身体反応をしながら楽しく聴こうとしている。</li> <li>冬や春の様子を思い浮かべながら、楽しく歌おうとしている。</li> </ul>	身体反応 歌声 グループ活動の様子 身体表現
イ. 曲の気分を感じ取りながら、歌い方を工夫している。 (観点②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の気分を感じ取って、こんなふうに歌いたいと、自分の思いを込めてグループで歌い方を工夫している。</li> </ul>	歌声 グループ活動の様子
ウ. 自分の歌声や発声に気を付けて、明るく柔らかい声で歌っている。 (観点③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで工夫したことを、楽しく伸び伸びと表現している。</li> </ul>	歌声 表情
エ. 友達の表現のよいところを見つけながら、楽しく聴いている。 (観点④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発表を、いっしょに演奏している気持ちになって、楽しく聴いている。</li> </ul>	感想 発言

7. 指導計画 (8時間扱い 本時7/8)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第一	情景を想像しながら楽しく聴き、冬と春の様子の違いを感じ取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>情景を想像しながら聴く。</li> <li>冬の様子、春の様子の違いを感じ取って、それぞれの様子を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬や春の様子を思い浮かべ、身体反応をしながら楽しく聴こうとしている。</li> <li>〈規準ア〉 身体反応</li> </ul>	冬くまの夕ぐれはとぶ
第二	冬の歌、春の歌の楽曲の気分を感じ取って、歌い方を工夫する。	2  3	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の寒さの中でも、楽しく遊んでいる様子を思い浮かべながら、冬の歌を歌う。</li> <li>手遊びをしたり、身体表現をしたりしながら、わらべうたを楽しく歌う。</li> <li>春の様子を思い浮かべながら、気持ちを込めて明るい声で春の歌を歌う。</li> <li>一人で歌ったり、グループで歌ったりして聴き合い、曲の気持ちに合った歌い方を工夫しながら歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬や春の様子を思い浮かべながら、楽しく歌おうとしている。</li> <li>〈規準ア〉 身体表現、グループ活動の様子</li> <li>曲の気分を感じ取って、こんなふうに歌いたいと、自分の思いを込めてグループで歌い方を工夫している。</li> <li>〈規準イ〉 歌声</li> </ul>	こわらべうた 二月
第三	友達の歌声を聴きながら、グループで歌い方を工夫する。	4 5 6  7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の歌、春の歌を取り入れて、「春をむかえる音楽会」の流れを話し合う。</li> <li>グループで役割分担をし、練習する。</li> <li>歌の気持ちを生かして、一人で歌ったり、交互唱をしたりなど、グループで歌い方の練習をする。</li> <li>「春をむかえる音楽会」の練習をする。</li> <li>グループごとの発表を聴いて、友達やグループのよいところを見つけて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の気分を感じ取って、こんなふうに歌いたいと、自分の思いを込めてグループで歌い方を工夫している。</li> <li>〈規準イ〉 歌声、グループ活動の様子</li> <li>グループで工夫したことを、楽しく伸び伸びと表現している。</li> <li>〈規準ウ〉 歌声、表情</li> </ul>	春お春の花は友だち
第四	「春をむかえる音楽会」を楽しむ。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで工夫してきたことを生かし、友達と楽しく表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬や春の様子を思い浮かべながら、楽しく歌おうとしている。</li> <li>〈規準ア〉 歌声、身体表現 グループ活動の様子</li> <li>友達の発表を、いっしょに演奏している気持ちになって、楽しく聴いている。</li> <li>〈規準エ〉 感想、発言</li> </ul>	

8. 本時の展開 (第三次 4時)

◦目標 くまさんが喜ぶような音楽会になるように、みんなで工夫する。

学 習 過 程	子 ども の 活 動	めざす子どもの姿
1. 楽しく歌い、学習への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• わらべうたを歌いながら、手遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽しく歌ったり、身体表現をしたりしている姿</li> </ul>
2. めあてをもち、学習への期待感をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• めあてをつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     くまさんが喜ぶような音楽会をひらいて楽しもう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• みんなで楽しく音楽会をしようと、意欲的になっている姿</li> </ul>
3. それぞれのグループが思いを込めて表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループで練習をする。</li> <li>• 進行係のリードで「春をむかえる音楽会」の練習をする。</li> <li>• プログラムにそって、グループごとに登場し歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループで自分たちの楽曲を楽しく表現している姿</li> <li>• 表情豊かにグループ発表をしたり、一生けんめい聴いたりしている姿</li> </ul>
4. 音楽会の感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• くまさんが喜ぶような音楽会になったか、自分たちも楽しんだか話し合う。</li> <li>• みんなで歌ってみたい歌を選んで、楽しく歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 音楽会がどうであったか、活発に発言している姿</li> <li>• みんなで楽しく歌っている姿</li> </ul>

教 師 の か か わ り と 評 価 (☆)	
T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの輪の中に入って、いっしょに活動することによって、これから楽しく学習をはじめていく雰囲気づくりをしている。</li> <li>• 喜んでいる顔、悲しそうな顔、困った顔のくまさんの絵を掲示して、くまさんがどの顔になってほしいかと問いかけることによって、めあてをつかむようにする。</li> <li>• グループの中に入って、声がけをしながらいっしょに楽しむ。</li> <li>• はじめての全体練習であるので、進行係の子どもがはりきってできるように、声をかけたり、いっしょに進行したりすることによって支援していく。</li> <li>☆グループで工夫したことを、伸び伸びと表現している。〈規準ウ〉(表情)</li> <li>• 表現を認めることによって、「春をむかえる音楽会」をさらに楽しくするめあてへつながるようにする。</li> <li>• 子どもの輪の中に入って、楽曲に浸って歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• わらべうたの感じをつかみ、楽しく歌えるように、アドバイスをしたり、伴奏をしたりする。</li> <li>• 子どもといっしょに話をきく。</li> <li>• グループの中に入って、いっしょに手拍子をしたり、歌ったり考えたりする。</li> <li>☆グループで工夫したことを、伸び伸びと表現している。〈規準ウ〉(歌声)</li> <li>• 思いを込めて伴奏することで、表情豊かに歌うように支援する。</li> <li>• それぞれのグループで、工夫が十分に表現されているところを認めたり、音楽的な要素に関連づけて話したりしながら、共感的に支援する。</li> <li>• 思いを込めて伴奏し、しめくくりにあふさわしい歌い方になるように支援する。</li> </ul>

## 第2学年3組 音楽科学習指導案

指導者 荒川 仁美

### 1. 題材 ゆめの国へ さあ出発

#### 2. 題材設定の意図

- (1) 低学年の子どもたちは、音楽を耳にしているとき自然に曲に合わせて体を動かしたり、旋律を口ずさんだりする。それは、自然な心の動きに合わせて楽しみながら聴く姿である。この時期は、いろいろな音楽にふれることでその音楽の要素や音色の特徴、音の響き、イメージの広がりなどを身体反応の快さと共に多様と感じ取っていくことができる。そこで、乗り物をテーマとした鑑賞を、音づくりを工夫するといった表現活動との関連を図りながら行うこととした。低学年の子どもたちにとって、乗り物は興味がわくものであり、しかも身体表現と結びつけながら体全体で楽しんでいける。それによって、自ら聴こうとする意欲を高め自然に楽曲に溶け込んでリズム、旋律、速さの変化など音楽を特徴付けている要素を感じ取るといった、より深い鑑賞能力の素地を培っていけるものと考えられる。
- (2) 本学級の子どもたちは、鑑賞が大好きで「今度はどんな曲かな。」「もっと聴きたい。」と意欲的に聴こうとする。新しい曲に出会ったときには、自然に揺れながら聴いたり体でリズムをとったり、様子を楽しく想像して話したりする。これまでの学習では、動物をテーマとしてマーチやワルツを聴いたり、リズムや楽器の特徴が生きているルンバやポルカを聴いたりしてきた。そこでは旋律やリズムの変化を感じ取って歩き方を工夫することや手作り楽器でリズム打ちをすること、楽器の音色に気を付けて聴き、楽器のまねっこをすること、また、主な旋律を口ずさみながら聴くなどの活動をしてきた。これらを通して、多くの子どもたちは、曲から感じ取ったことを楽しく体で表現するようになってきた。しかし、まだ十分に楽曲に溶け込んで、聴きながら感じたことを自由に表現するまでには至っていない。そこで、本題材を通して様々な表現活動により、豊かに情景を想像して体で音楽の楽しさや美しさを味わっている姿が表れることを期待している。
- (3) 指導にあたっては、旋律、リズムや速さの変化に焦点をあてながら楽曲が表している様子を感じ取って楽しさや美しさを味わうようにしたいと考えている。そして、「もう一度聴いてみたい。」「もっと聴きたい。」という思いがくり返し生まれてくるようにしたい。そのために、音楽を聴いて感覚的に反応する活動や感じ取ったことをより確かにして身体表現していくこと、身の回りの音素材を生かした音づくりといった鑑賞と表現との関連を常に図りながら指導を進めていきたい。

まず乗り物を表現した音楽と出会う場では、生活体験や映像などによる追体験を生かしながら、身体反応すると共に楽曲への関心をもつようにする。そして、心地よい車輪の動きを表す音楽を身体表現したり、車内の様子や車窓からの景色を想像させる主な旋律を口ずさんだりすることで集中して聴き、楽曲のもつ楽しさを感じ取るようにしたい。

次に、自動車へのイメージを深めて表現を工夫していく場では、鑑賞教材と歌唱教材との

関連を図りながら自動車の出発、車中、到着の様子を身の回りの音素材や楽器を使って表現していくようにしたい。

終わりに、自分たちで工夫してつくった自動車の音を歌唱教材に加えて歌うことを通して、鑑賞曲への思いが一層深まり、自動車の旅の様子を豊かに想像していけるようにしたい。

#### 3. 題材の目標

- ・自動車に乗った楽しい気分で音楽を聴いたり、身体表現をしながら聴いたりして、イメージを広げる。
- ・自動車のイメージに合う音を見つけて工夫して表現する。
- ・リズムや旋律の感じの違いをとらえて、自動車の旅の様子を思い浮かべて聴く。

#### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- ・リズムや旋律の違いをとらえて楽曲の気分を感じ取る。〈身体反応をしたり身体表現をしたりしながら聴く。主な旋律に歌詞を付けて口ずさむ。〉
- ・自動車のイメージに合う音づくりを工夫する。〈自動車の音見つけ。声で音を表現する。身近な物や楽器で音づくりをする。〉
- ・場面の移り変わりをとらえて様子を思い浮かべて聴く。〈「みんなの自動車」発表。詩の朗読を聴く。身体表現をしながら聴く。〉

#### 5. 教材

##### (1) 「出発」 (組曲「冬のかがり火」から) プロコフィエフ 作曲

マルシャークの一連の詩により、冬休みを郊外で過ごす子どもたちの様子を描写的に表した音楽である。「出発」はこの中の第1曲である。発車を思わせるホルンの響き〔A〕、続いて打楽器や弦楽器が車輪の音をリズムカルにきざみ始める。そしてトランペットが汽笛を模倣する。管楽器が主題〔B〕を演奏し楽しい自動車の旅を表現する。やがて子どもたちの楽しげな歌声〔C〕をいろいろな楽器で表現し再び〔B〕に戻る。最後に目的地に到着した気分で終わる。よく聴くとこれらの様子が旋律、リズムや速さの変化から感じ取られる。乗り物に関心の強い低学年の子どもたちにとっては、自然に身体表現と結び付けられ、楽しい気分浸ったり様子を思い浮かべて美しさを味わったりできる教材である。



(2) 「ちいさなSL」 ビラ ローボス 作曲

SLがゆっくりと力強く動きだす様子を打楽器と木管楽器が表現する。そして車輪が軽快に動く様子を打楽器や弦楽器がきざむ中、主題が流れ広がる景色を想像させる。途中、トンネルや鉄橋を通る様子なども想像され、再び主題が流れると汽車は目的地に着きゆっくりと止まる。「出発」とよく似た様子を表しながらもその表現を比べながら聴くと汽車の動きを楽しくとらえることができ、汽車の音づくりへと導くのに適した教材である。

(3) 「みんなの汽車」 山瀬由子 作詞 外国曲

SLの特徴の一つである煙をはく様子が♪♪のリズムで楽しく表現され、汽車に乗り込んだ気分で身体表現をしながら歌うことができる。また、様子を想像して汽車の音を工夫してつくり、効果音として加えて歌うと一層楽しく表現できる。このようにSLへの関心を高め「出発」の鑑賞をより深めていくための表現活動を組むうえで適切な教材である。

(4) 「SLを映したVTR」「ミニSL乗車による体感」

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 楽曲の気分を感じ取って進んで身体表現をしながら聴いている。(観点①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物に乗った気分で体を動かしながら楽しく聴こうとしている。</li> <li>車輪の動きや汽笛などの音をとらえて、楽しく身体表現をしようとしている。</li> </ul>	表情 身体反応 身体表現
イ. 汽車の動きを感じ取ってイメージを広げ、合う音を工夫して表現している。(観点②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>汽車のイメージに合うように音素材を見つけたり、楽器での表現の仕方を工夫したりしている。</li> </ul>	グループ活動の様子 学習カード
ウ. 楽曲の気分を生かして音づくりをしたり歌で表現したりしている。(観点③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の気分を生かして明るい声で歌ったり、曲の流れにのって効果音をいれたりリズム伴奏をしたりしている。</li> </ul>	演奏 歌声
エ. リズムや旋律、速さの感じの違いをとらえて、様子を思い浮かべながら聴いている。(観点④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>汽車の動きをとらえ、それを身体表現をしながら聴いている。</li> <li>旋律をとらえて、場面の移り変わりを想像しながら聴いている。</li> </ul>	身体反応 発言 身体表現 感想

7. 指導計画 (6時間扱い 本時3/6)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第一 次	乗り物の様子を想像しながら身体表現をしたり歌ったりして、聴く楽しさに気付くようにする。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな乗り物について話し合い、それらの音を声で表現する。</li> <li>楽曲の感じをとらえて、乗り物を想像しながら聴く。</li> <li>「出発」について知る。</li> <li>汽車の様子を想像しながら聴く。</li> <li>「みんなの汽車」を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物に乗った気分で体を動かしながら楽しく聴こうとしている。</li> <li>〈規準ア〉(表情、身体表現)</li> </ul>	みんなの汽車
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなの汽車」を身体表現をしながら歌う。</li> <li>汽車に乗って出かける気分で身体反応をしながら「出発」を聴く。</li> <li>汽車の動きを表すリズムや速さの変化に気を付けて身体表現をしながら聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車輪の動きや汽笛などの音をとらえて、楽しく身体表現をしようとしている。</li> <li>〈規準ア〉(身体表現)</li> </ul>	
		3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>汽車の動きを感じ取って身体表現をしながら「出発」を聴く。</li> <li>主な旋律を覚えて、歌詞唱をする。</li> <li>主な旋律を口ずさみながら楽曲に親しんで聴く。</li> <li>汽車の動きを身体表現をしたり旋律を口ずさんだりしながら聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律をとらえて、場面の移り変わりを想像しながら聴いている。</li> <li>〈規準エ〉(身体表現)</li> </ul>	
第二 次	汽車の動きに合う音を見つけて表現の仕方を工夫し楽しく歌う。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小さなSL」を「出発」とくらべながら聴く。</li> <li>「小さなSL」を聴いて汽車が動くときの音を見つけ、声で表現する。</li> <li>「みんなの汽車」に合う音を見つけて話し合い、5つの場面に分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>汽車の動きをとらえ、それを身体表現をしながら聴いている。</li> <li>〈規準エ〉(身体表現、発言)</li> </ul>	小さなSL
		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物や楽器の中からイメージに合う音を探してグループで工夫して音づくりをする。</li> <li>つくった音を加えて「みんなの汽車」を歌う。(グループ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>汽車のイメージに合うように音素材を見つけたり、楽器での表現の仕方を工夫したりしている。</li> <li>〈規準イ〉(グループ活動の様子)(学習カード)</li> </ul>	
第三 次	場面の移り変わりをとらえて様子を思い浮かべながら聴くようにする。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでつくった音をつないで効果音やリズム伴奏として加え、楽しく「みんなの汽車」を歌う。</li> <li>詩の朗読を聴いて出発の様子や窓から見える景色などを思い浮かべながら味わって聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の気分を生かして明るい声で歌ったり、曲の流れにのって、効果音を入れたりリズム伴奏をしたりしている。</li> <li>〈規準ウ〉(演奏、歌声)</li> <li>旋律をとらえて、場面の移り変わりを想像しながら聴いている。</li> <li>〈規準エ〉(身体表現、感想)</li> </ul>	

8. 本時の展開 (第一次 3時)

◦目標 主な旋律を口ずさんだり身体表現をしたりして楽しく聴く。

学習過程	子どもの活動
1. 楽しく学習する雰囲気をつくり出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなのゆめを」を楽しく歌う。</li> <li>「みんなの汽車」を身体表現をしながら歌う。</li> </ul>
2. めあてを確かにして学習への期待感をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「出発」を身体表現をしながら楽しく聴く。</li> <li>めあてをつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">                     おもなふしを歌いながら楽しくきこう                 </div>
3. イメージをもって表現を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> <li>「出発」の主題〔C〕の旋律をラララで歌う。</li> <li>部分的に歌詞を考えて歌詞唱する。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>さぁ トネルぬけたらながみえるたのしみだ                      ○ ○○○○ ○ ○○○○ラララーすてきだ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて、好きな歌詞で歌う。</li> </ul>
4. 聴く楽しさを感じ取る	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔C〕の旋律を口ずさんだり、他の部分は身体表現をしたりしながら楽しく聴く。</li> </ul>

めざす子どもの姿	教師のかかわりと評価(☆)
<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで楽しく学習しようとする意欲が、表情や身体表現に表れている姿</li> <li>主な旋律を覚えて歌おうとする意欲が、表情や発言に表れている姿</li> <li>旋律に合う歌詞を工夫し、楽しく歌っている姿</li> <li>旋律を感じ取ろうと集中して聴いたり、旋律の変化やくり返しに気付いて身体表現をしながら聴いたりしている姿</li> <li>自分なりの方法で楽しく聴いている姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲に合わせて隊形を変えたり、部分的にオスティナートをつけたりしてそれぞれの曲を楽しく歌い、みんなで学習を始めていく雰囲気づくりをする。</li> <li>「歌いたくなるようなすてきな景色が見えてくるのは、どのへんかな。」と問いかけ、歌いたいという意欲をもつようにする。</li> <li>子どもの発言をとらえながら主題Cに着目するようにするが、主題Bへの関心が高ければ、それも取り上げていく。</li> <li>ハ長調に移調し、絵譜を掲示することで歌いやすくする。</li> <li>景色を自由に想像して歌詞を部分的につくるようにし、くり返し歌詞唱することで旋律に親しむようにする。</li> <li>歌詞がうまく旋律にあてはまらないときは、子どもの思いを大切にしながら旋律に合う言葉を助言する。</li> <li>好きな歌詞を選んでグループをつくり、「どの汽車がすてきな景色を見せてくれるかな。」と働きかけ、声を合わせて楽しく表現するようにする。</li> <li>グループごとの歌声を聴き合い、汽車の旅の楽しい雰囲気を感じながら、旋律に親しむようにする。</li> <li>覚えた旋律が聴こえてきたら身体表現をすることを働きかけ、旋律の違いに集中して聴くようにする。</li> </ul> <p>☆旋律をとらえて、その変化を感じとって身体反応をしている。〈規準エ〉(身体反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が楽しいと思う方法で表現しながら聴くように助言し、聴く楽しさを感じ取れるようにする。</li> </ul>

## 第4学年3組 音楽科学習指導案

指導者 渡部 美紀

### 1. 題材 歌のカレンダー

#### 2. 題材設定の意図

(1) 4年生も終わりに近づいて、子どもたち一人一人の声も安定し、歌唱のレパートリーも増えてきているこの時期、旋律の美しさを味わったり、歌詞の表す様子や気持ちを想像したりしながら、歌唱表現できるようにと考えると、「歌のカレンダー」づくりを計画した。既習曲の中から、季節を感じさせる曲を自分たちで選曲し、その構成や、歌い方の工夫をしていく活動を通して子どもたちが主体的に音楽活動にかかわり、表現する喜びや、それを聴き合う楽しさを味わってくれるのではないかと考える。そして、季節のイメージを表現しようと工夫する中で、曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取り、それを表現に生かしていく能力が高まっていくことを期待している。

また季節が変わればイメージも変わることに関心、友だちの音楽表現を楽しんだり、認め合ったりする心情も育つのではないかと考える。

一人一人の思いを生かし合い、友だちと協力してつくりあげた一年間の歌物語が、まもなくクラス替えになる子どもたちの記念演奏として、いつまでも心に残り、これからの音楽活動への意欲付けとなることを願っている。

(2) 本学級の子供たちは、最近になってきれいな声で歌おうという意識が芽生えてきている。低音部を歌うときはまだ胸声になりやすいが、高音部を歌うときは無理のない頭声で歌えるようになった。また、朝や帰りの会などで、毎日今月の歌や既習曲、その他自分たちが歌いたい曲を選んで歌うなど、音楽が生活の中に浸透してきている。

4年生の1学期には、「情景を思い浮かべて歌おう」という題材を通して、フレーズ曲線を描いて曲の山を見つけたり、歌詞の内容から情景を想像したりして、歌い方を工夫する学習を経験した。強弱をつけて歌ったり、人数を変えて歌うなど、子どもたちなりに場面の様子を歌声に表そうとする活動が見られた。しかし、一人一人の思いはあっても、表現の工夫が聴き手に伝わらなかったり、表現方法が見つからなかったりして、表現する喜びが十分に味わえなかった子どももいた。このカレンダーづくりを通して、子どもたちが自分なりの表現を試みようという気持ちをもったり、歌う楽しさを感じたりできることを願っている。

(3) 指導にあたっては、旋律やリズムの特徴を感じ取り、自分なりの表現ができる子どもを目指し、「歌のカレンダー」づくりを通して既習曲を選曲、構成したり、イメージに合った歌い方を工夫したりする活動を試みる。

本題材との出会いとしてビバルディーの「四季」の一部を聴き、音楽で季節のイメージを表現できることや、人によって四季のイメージは様々であることに気付くようにする。そして、自分たちも歌でカレンダーをつくってみたいという意欲へつなげていきたい。

指導にあたっては、まず既習曲の中から、もう一度歌ってみたい曲を子どもたち自身が探すようにする。自分たちの選んだ季節に合う歌詞や旋律をもつ曲を、自主的に選曲していくことで、「今までよりもっとすてきに歌いたい」という思いや願いをもち、主体的にカレンダーづくりに取り組めるのではないかと考える。教材を選ぶ際には、合唱を取り入れた曲なども選曲するように助言し、歌声のよさを生かしたり、歌唱形態を工夫したりできるようにしたい。また、グループごとに自分たちの選んだ季節についてのイメージを話し合うようにする。そうすることで自分たちだけのすてきなカレンダーを工夫してつくろうという意欲をもったり、歌い方の工夫をする際のめやすとなったりすると考える。

グループごとに歌い方の工夫をする場面では、独唱、重唱、合唱、交互唱など、多様な歌唱形態の曲を聴かせ、自分たちのイメージに合う歌い方の方法を見つける手助けとなるようにしたい。そして子どもたち一人一人のよさや個性が生かせるように歌う分担や役割を決めるように支援していきたい。さらに、曲と曲のつながりにナレーションや効果音を入れるなど子どもたちが自分たちの能力やよさを生かして工夫しながら、楽しくカレンダーづくりに取り組んでほしいと考える。

#### 3. 題材の目標

- ・友達と協力して曲を選び自分たちのイメージに合った歌のカレンダーづくりをする。
- ・それぞれの曲の季節感や曲趣を感じ取り、自分たちのイメージに合った歌い方を工夫する。
- ・発声や呼吸の仕方に気を付け、響き合いの美しさを感じ取りながら歌う。

#### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- ・イメージに合った曲の構成を工夫する。〈季節のイメージづくり、イメージに合った選曲、役割分担〉
- ・曲想に合った表現の工夫をする。〈歌唱形態、強弱、速さの工夫、効果音、ナレーションづくり〉
- ・友達の表現を感じ取って聴く。〈発表会、意見交換〉

#### 5. 教材

##### (1) 「そよ風」 岩河三郎 作詞 作曲

さわやかな春から夏へかけての様子や景色を歌った曲である。1、2、3フレーズとだんだん音域が高くなり、ふしの感じも盛り上がる。頭声的発声で歌うのに適した教材といえる。また、3フレーズ目の途中から、二部合唱になっており、より豊かな表現の工夫ができる。

##### (2) 「ティキティキ」 高木あきこ 作詞 石柘冬樹 作曲

夏の日の砂浜での楽しい雰囲気を軽快なリズムで描き出した曲である。この曲のタイトルともなっている「ティキティキ」に特別な意味はなく、はじけるという言葉のイメージ



8. 本時の展開 (第一次 5時)

- 目標 自分たちのカレンダーのイメージが聴き手に伝わるように気持ちを込めて表現する。

学 習 過 程	子 ども の 活 動
1. 生き生きと歌い、学習への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既習曲を歌う。 「黄色の風に」「ティンティララ」</li> </ul>
2. 自分たちの思いを明らかにし、学習のめあてをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前時の録音を聴き、自分たちのカレンダーのイメージが歌声に表れているか話し合いグループごとにめあてをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グループで協力して、自分たちのカレンダーのイメージが聴き手に伝わるように歌おう。</p> </div>
3. 自分たちの思いを生かした演奏に向かって、工夫を重ねる	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループごとに、話し合いをもとに、よりよい表現に向けて試奏を重ねる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• さわやかな感じが出るように、明るい声で歌おう。</li> <li>• もう少し速さを遅くしたほうが、イメージに合うよ。</li> <li>• もっと強弱をはっきりつけよう。</li> <li>• アルトとソプラノのバランスはこれでいいかな。</li> <li>• 効果音やナレーターのタイミングはどうかな。</li> </ul> </li> <li>• グループ内で係を決め、自分たちのイメージが演奏に表れているか聴き合う。</li> </ul>
4. 演奏し、ひとつのものをつくりあげた喜びと感動を味わう	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4年3組のカレンダーを通して演奏する。</li> </ul>

めざす子どもの姿	教師のかかわりと評価(☆)
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 明るい表情で生き生きと歌う姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歌唱形態を変えたり、部分的に楽器を入れたりして、リズムによって生き生きと歌うようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分たちのイメージが歌声に表れているか、録音を真剣に聴く姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前時の録音を聴き、よりイメージ豊かに歌いたいという意欲をもつようにする。</li> <li>• 自分たちのカレンダーにめあてや工夫を書き込むことで課題を明確にするようにする。</li> <li>• 話し合いがまとまらないグループには、子どものイメージを生かしながら適切なアドバイスをする。</li> <li>• 子どもの気付かなかった課題については助言する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の思いを生かして表現する姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リコーダーで始めの音をとったり、テープに録音した伴奏に合わせて歌うようにする。</li> <li>• 速さを工夫しているグループのためにメトロノームを準備する。</li> <li>• 子どもたちのイメージが演奏に表れていないグループにはもう一度イメージを想起するように助言する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の考えをはっきり言ったり、友達のアドバイスを受け止めて、協力してカレンダーづくりをする姿</li> <li>• 自分たちのイメージを生かして歌おうとしている姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どちらの表現がいいか迷ったり、どのように表現したらいいかつまずいているグループには、他のグループに相談するように助言する。</li> <li>• 発表の準備ができたグループはOKカードを黒板に貼るようにし、発表への意欲付けにする。</li> <li>• グループのカレンダーを黒板に貼ったり、演奏形態を工夫して、演奏順序が明確になるようにする。</li> <li>• 自分たちのイメージが聴く人に伝わるように、気持ちを込めて歌ったり演奏したりするよう助言する。</li> </ul> <p>☆自分たちのイメージに合った声や歌い方で歌っている。 〈規準ウ〉(演奏)</p>

## 第5学年3組 音楽科学習指導案

指導者 伊藤 紀子 (T<sub>1</sub>)

指導者 新田 紀久 (T<sub>2</sub>)

### 1. 題材 ザ・カーニバル

#### 2. 題材設定の意図

(1) 今、情報化、国際化が著しく進み、あらゆるメディアによって世界のさまざまな音楽がいながらにして楽しめる時代になってきているため、今までの体験の範囲に入らない異文化の音楽にふれる機会も多くなってきた。子どもたちにとって他国への憧れは強烈であり大人以上にその異文化の本質を鋭く感じる能力をもっていると考えられる。

そのため、独特のリズムが生き生きとした躍動感を醸し出しているラテン風の音楽は、より子どもの興味や関心を引き出す題材であろうと予測できる。これにより子どもたちは、主体的に学習にかかわっていき、内発的な学習意欲や課題意識を生み出し、創造的な音楽活動を行っていきけるものと考えられる。

今回はラテン音楽を指導要領の5年生段階での「音の重なり」という重点項目にそって取り上げてみることにした。「音の重なり」を単なる和声の概念を越え、より広い範囲でとらえ、和音のみならずリズムや擬音をも構成音として活用していきたい。また子どもたちの考えや感性をもとに、自由に曲を再構成したり添付したり発展させたりするなどの活動を通して、音を重ねる能力や、音楽的基礎能力を育成しようとする意図とした。

具体的にはサンバ風のリズムにのり、グループごとに工夫を加えたアンサンブルを演奏しクラス全員で自分たちのカーニバルをつくるのがねらいである。また、グループの演奏をつなぎ合い、教室をカーニバル会場として楽しさに浸ることができたら、どんなにか喜びが大きく、音楽を愛好する心情にせまることができるのではないかと考え、この題材を設定した。

(2) 高学年の子どもたちはそれまでの、旋律の美しさ、リズムのおもしろさを線的にとらえる段階を過ぎ、音の重なりや和音の響きの美しさを感じ取る段階に入る。それは子どもの内面的発達段階と重なっている。この時こそアンサンブルのおもしろさ、楽しさを体験することが大切だと考える。アンサンブルは、音楽の基礎的能力を育てると同時に、グループ内での自分の役割の大切さや共に追究する難しさを知ったり、そしてそれを乗り越えた時の満足感を味わったりするなどの体験を通して子どもづくり、学級づくりにも一役買うものと思われる。

本学級の子どもたちは、アンサンブル学習として4年生段階では、学級歌とそのリズム伴奏をつくる体験をしている。5年生になり、はじめてアンサンブルオルガンでの和音の学習に入ったが、子どもたちの旋律・和音・低音のアンサンブル演奏には予定以上の時間が必要であった。その理由として、個々の演奏技能の未熟さだけでなく、アンサンブルの基礎能力、つまり音の重なりをキャッチできる「耳」がまだ十分育っていないことが挙げられる。次に同じ曲で、自分たちのイメージをもとに、パートの重ね方を工夫したり、音

色やリズムを変えたりしていく学習では、アンサンブルの楽しさを味わっていたように思われる。しかしその中で、一人一人に合った分担奏がうまく決められず、不満足な活動に終わったグループもみられた。グループ学習でのこうしたつまずきには、その原因をしっかりと把握し、支援しながら、アンサンブル演奏を通して共に取り組み、つくり上げることの大切さにも気付かせていきたいと考える。

(3) 本題材でのめざす子どもの姿は、子どもたちが「サンバをおどろう」の曲からイメージを深め、パートの組み合わせ、楽器選択、リピートの工夫をし、自分たちの演奏を楽しむ姿だと考える。

指導にあたっては、まずブラジルのカーニバルの音楽に触れ、サンバ風のリズムをリズム唱したりステップを踏んだり演奏したりすることで、サンバの音楽の特徴を体で感じ表現することを大切にしていきたいと考える。

次に、グループ内で一人一人が自分のイメージをもち、グループとしての願いを話し合いながら試奏を重ね、自分たちのオリジナル「サンバをおどろう」を演奏し、聴き合う活動に入る。ラテン楽器やその他の楽器については、まだ学習体験が少ないため、VTRやCDを活用することで、基本的な奏法や楽器特有の音色に気付くようにしたい。さらにラテン楽器の奏法の工夫を重ねることで、より豊かに表現する活動に発展することを期待している。

子どもたちの演奏それ自体が教材である、という考えから、子どもたちの演奏が、それぞれに自分たちのよさを十分に表現した、個性的な演奏であってほしい。従って、子どもたちの、曲に対するイメージをしっかりと受け止め、それが音楽を通して表現されるよう適切な助言をしていこうと考えている。TTの指導としては、T<sub>1</sub>が歌声や演奏に関する指導を行い、T<sub>2</sub>は子どもと共に楽しんで活動するふれあいを通して、一人一人やグループが自分たちのよさを発揮するような支えを行っていく考えである。

#### 3. 題材の目標

- サンバ風の音楽に関心をもち、進んで身体表現したり演奏したりする。
- 音の重ね方やサンバのリズムに合った演奏を工夫し、自分たちのカーニバルをつくるようにする。

#### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- サンバのリズムの特徴をつかみ、ラテン楽器の基本的奏法を身につけて楽しく演奏する。  
〈サンバの音楽を聴く・ステップを踏む〉
- 音の重ね方や曲の構成を工夫してアンサンブルをする。〈パートの組み合わせ・楽器選択・リピートの工夫をする〉

#### 5. 教材

- (1) 「サンバをおどろう」 ブラジル民謡

へ長調、四分の四拍子、十六小節の短い曲である。低音の「♪」の一定のリズムの上にシンコペーションを伴った主旋律と副旋律、サンバのリズムとで構成されている。

のりやすい曲で、子どもが喜んで取り組むことができると思われる。

(2) 「しおまねきのサンバ」 土肥 武 作詞 平吉毅州 作曲

サンバの軽快なリズムにのって、しおまねきがのっそり集まり、サンバを踊るという設定である。二部合唱になっており、メロディ、伴奏ともりのりやすい粋な曲づくりになっている。合奏にも編曲されている。

(3) 「ブラジル」 アリー・バローゾ 作曲

ブラジルの第一の作曲家、アリー・バローゾの作品で、世界的に知られたサンバの名曲である。ブラジルの風景が目の前に浮かんでくるような、美しく華やかなメロディである。サンバは速いもの、やや遅めのものと両方あるが、この曲は両方のアレンジがある。

6. 題材における評価計画

評価基準	評価項目	評価方法
ア. ラテン風の音楽に関心を持ち意欲的に聴いたり演奏したりする。(観点①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラテン音楽に興味をもって聴こうとしている。</li> <li>サンバのリズムを楽しもうとしている。</li> <li>友達と協力しながら活動しようとしている。</li> </ul>	発言 学習カード 身体反応 追究の仕方
イ. サンバ風のリズムの特徴や楽しさを感じ取って、自分たちのカーニバルを工夫する。(観点②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの思いをもとに曲の構成を工夫している。</li> <li>サンバ風のリズムの特徴を表現しようと工夫している。</li> </ul>	試奏 追究の仕方
ウ. サンバ風のリズムの特徴をつかみ、音の重なりを聴きながら演奏、表現している。(観点③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバ風のリズムの特徴をつかみ、音の重なりを聴きながら演奏している。</li> </ul>	演奏 身体反応
エ. 友達の工夫のよさを聴き取ったり、サンバ風の音楽の特徴を味わったりして聴く。(観点④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の演奏の工夫のよさを見つけながら聴いている。</li> <li>サンバ風の音楽の特徴をつかんで聴いている。</li> </ul>	態度 学習カード

7. 題材指導計画 (8時間扱い 本時7/8)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第一 次	ラテンの音楽に親しみ、身体反応をしながら、サンバのリズムを感じ取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Jリーグのオフィシャルソングを聴いてラテンのリズムが使われていることを知る。</li> <li>いろいろなラテン音楽を聴き、曲ののって身体反応をする。</li> <li>日本の盆踊りとリオのカーニバルのVTRを比較し、文化の違いを感じ取り、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラテン音楽に興味をもって聴こうとしている。 〈標準ア〉 (発言、学習カード)</li> </ul>	サンバ ブラジル Jリーグソング
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバの基本ステップをみんなで工夫しながら踏む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバのリズムを楽しもうとしている。 〈標準ア〉 (身体反応)</li> </ul>	
第二 次	歌ったり演奏したりしてサンバのリズムを表現する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバのいろいろな曲を歌い、サンバの曲に親しむ。</li> <li>サンバの音楽からサンバのリズムを聴き取り、そのリズムをことばで表現してみる。</li> <li>リズムにふさわしい楽器を選び、サンバ風のリズムを演奏する。</li> <li>よく知っている曲にサンバ風のリズム伴奏を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバ風の音楽の特徴をつかんで聴いている。 〈標準エ〉 (態度、学習カード)</li> </ul>	しおまねきのサンバ
		4			
第三 次	工夫してサンバ風の曲をつくったり聴き合ったりして、サンバの曲の楽しさやおもしろさを味わう。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「サンバをおどろう」を身体反応しながら聴き、歌う。</li> <li>カーニバルのバンドマンになったつもりで、グループで合奏計画を立て、工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの思いをもとに曲の構成を工夫している。 〈標準イ〉 (試奏、追究の仕方)</li> <li>友達と協力しながら活動しようとしている。 〈標準ア〉 (追究の仕方)</li> <li>サンバ風のリズムの特徴を表現しようと工夫している。 〈標準イ〉(試奏)</li> <li>ラテン風のリズムの特徴をつかみ、音の重なりを聴きながら演奏している。 〈標準ウ〉 (演奏、身体反応)</li> </ul>	サンバをおどろう
		6	楽器選択 パートの組み合わせ リビートの工夫 リズム伴奏の工夫 前奏・後奏の工夫		
第三 次		7 へ 本 時 〜	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで発表する。</li> <li>みんなの演奏をつないで「5の3のカーニバル」をしよう。</li> </ul>		
		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生の合同音楽でそれぞれのクラスのカーニバルを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の演奏の工夫のよさを見つけながら聴いている。 〈標準エ〉 (態度、学習カード)</li> </ul>	

8. 本時の展開 (第三次 7時)

・目標 サンバ風のリズムや音の重なりを感じながら「自分たちのカーニバル」を演奏する。

学 習 過 程	子 ども の 活 動	め ざ す 子 ども の 姿
1. 歌や演奏を楽しみ、学習への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲を歌ったり、身体反応したりする。</li> <li>「しおまねきのサンバ」「白い船」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌うことを楽しむ姿</li> </ul>
2. 自分たちの思いをもち学習のめあてをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーニバルのVTRを見て感想を發表し合ったり、実際に音を出してやってみたりする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おどりたくなるような5の3のカーニバルをしよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体でリズムに反応する姿</li> </ul>
3. 自分たちの思いを生かした演奏に向かって工夫を重ねる	<ul style="list-style-type: none"> <li>踊りたくなるサンバの演奏にするにはどうしたらいいか話し合う。</li> <li>話し合いをもとに、試奏を重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをはっきり言ったり友達の考えを受け止めたりして一緒につくろうとする姿。</li> <li>試奏を重ね音を確かめる姿</li> </ul>
4. 友達の演奏のよさを見つけ合い深め合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの演奏を聴く。</li> <li>踊りたくなるグループの演奏はどこだろう。</li> <li>あのグループは、こうしたらどうかな。</li> <li>あの人の演奏は、のっていてすごいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して耳と目を働かせている姿</li> <li>サンバ風のリズムを生き生きと表現している姿</li> </ul>
5. みんなでカーニバルの楽しさに浸る	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの演奏をつなぎ、5の3のカーニバルをする。</li> <li>つなぎ部分や、つなぎ方を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバを楽しんでいる姿</li> </ul>

教 師 の か か わ り と 評 価 (☆)	
T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>
<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲を歌ったり、身体反応をしたりすることにより楽しく学習を始める雰囲気をつくる。</li> <li>カーニバルのVTRを見ることにより、心を開放してリズムにのる感覚を感じ取り、演奏したい意欲を高める。</li> <li>踊りたくなるような演奏になるための視点</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムカルな演奏(リズム、強弱、テンポ、音色、バランス)</li> <li>楽しそうな表情</li> <li>リズムにのった動き</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題につまずいているグループには、試奏して音を出しながら話し合いを進めていくよう助言する。</li> <li>発表の準備ができたグループは、OKカードを黒板にはるようにし、発表への意欲づけにする。</li> <li>のれる演奏はどこグループか発表し合うことで、生き生きとしたリズムが大切であることに気付くようにする。</li> <li>踊りたくなるための音楽的要素が明確でない発言については、教師が補足し気付くようにする。</li> <li>☆サンバ風のリズムの特徴をつかみ、音の重なりを聴きながら演奏している。 〈規準ウ〉 (演奏、身体反応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと共に楽しんで歌うことで意欲を支える。</li> <li>お互いのよさを生かすグループ活動になるよう観察し、適切な助言を行う。</li> <li>心を開放して表現ができない子には、一緒に演奏することで支えとする。</li> <li>☆サンバ風のリズムの特徴を表現しようとして工夫している。 〈規準イ〉 (試奏、追究の仕方)</li> <li>教師の感想も発言することで子どものよりよい演奏にむかっての高まりを支える。</li> <li>それぞれのグループの演奏を共に楽しむことで、子どもの成就感の支えとする。</li> <li>☆サンバ風のリズムの特徴をつかみ、音の重なりを聴きながら演奏している。 〈規準ウ〉 (演奏、身体反応)</li> </ul>

「(公) 開 授 業」の 概 要	
年 級	授 業 名
3年3組	お話に合う首をつくろう
4年1組	弁兵衛物語を音楽で表そう
5年2組	日本のふしに親しもう
6年2組	行ってみよう宇宙へ

## 公開授業Ⅱ

(11:35~12:20)

## 公開授業Ⅱ

年 級	題 材	授 業 者	場 所
3年3組	お話に合う首をつくろう	平塚 靖男	生活科教室 ホール
4年1組	弁兵衛物語を音楽で表そう	佐藤みゆき 伊藤 紀子	第2音楽室
5年2組	日本のふしに親しもう	林 和博	図 書 室
6年2組	行ってみよう宇宙へ	藤部恵美子	第1音楽室

Ⅱ 業 対 開 公

公 開 授 業 Ⅱ

(11:35~12:20)

年 組	題 材	授 業 者	場 所
3年3組	お話に合う音をつくろう	平塚 靖男	生活科教室 ホ ー ル
4年1組	弥兵衛物語を音楽で表そう	佐藤みゆき 伊藤 紀子	第2音楽室
5年2組	日本のふしに親しもう	林 和博	図 書 室
6年2組	行ってみよう宇宙へ	勝部恵美子	第1音楽室

## 第3学年3組 音楽科学習指導案

指導者 平塚 靖男

### 1. 題材 お話に合う音をつくろう

#### 2. 題材設定の意図

- (1) 3年生になると、楽器や身の回りの音素材を使って、音を出すことがとても好きになってくる。自分でイメージする音を選んでいるときの表情は真剣で、音の世界に入り込んでしまう。また、今までのさまざまな音楽の積み重ねから、「こんなふうに歌いたい」「このイメージを音にしたい」などといった、関心・意欲や表現の技能も高まってくるため、真剣に音を追究しようとする姿が見られるようになる。

そこで本題材「お話に合う音をつくろう」を設定した。本題材では、子どもたちが主体的にいろいろな音素材を選んだり、イメージに合った音をつくったり、その音の組み合わせを考えたりして音による表現の幅を広げていくことをねらっている。子どもたちがイメージした音を、声や身の回りにある音素材を使い、奏法、音の重ね方、組み合わせ方などを工夫することによって、音楽にはいろいろな表現の方法があることに気付き、その楽しさを体験できるようにしたいと考える。

いつの時代でも子どもたちの興味・関心を引き付けてやまない「魔法使い」や「おばけ」が登場する教材は、場面の様子、登場人物の不思議な雰囲気など、さまざまなものを想像することができる。「おばけやしき」という言葉から想像したことを、即興的に音を選んで表現する活動を通して、子どもたちが自分の思いを素直に自己表現できるようにしたいと考える。

- (2) 本学級の子どもたちは、楽器を使った音楽活動に進んで取り組み、授業の中でも日常生活の中でも、リコーダーをはじめとして、楽器や手作り楽器の演奏を楽しんでいる。それは、これまでに「リズムにのって歌おう」や「音を重ねて楽しもう」といった題材の学習によるところが大きい。前者では、声や楽器を使ってリズム打ちを工夫し、歌に合わせて演奏した。そのことにより、同じ表現になっているかえるの鳴き声やジャンプの擬音でも、発声の仕方や楽器の使い方でのいろいろな音の出し方が工夫できることを学んでいる。また、後者では手拍子や打楽器、手作り楽器の音を入れて歌ったり、順に音を重ねて演奏したりする活動を経験し、曲の中に音を入れて表現することや音を重ねることの楽しさを学んでいる。

こうした学習経験をしてきた子どもたちだから、歌詞や旋律から、登場するもののイメージを膨らませ、そのイメージに合う音を工夫して作り出す活動を通して、音による表現の幅を広げ、表現する喜びを感じながら学習を進めていくであろうと考えている。

- (3) 活動にあたっては、子どもたちが自分たちの思いを自由に話し合い、一人一人が夢中になってじっくり音づくりの活動をする場を設定したい。しかし、個人での活動には限界があるため、グループでの活動を設けたい。ここでは、一人一人の思いが生かせるような雰

囲気を大切にし、イメージをさらに広げていけるようにしたい。そのときのグループは、学級の実態や発達段階から7人ずつの4グループで活動することにする。

指導にあたっては、まず、子どもたちが興味・関心をもち学習に取り組む最初の手立てとして、親しみやすいいろいろなアニメの曲を聴いたり、歌ったりする。アニメの曲は、軽快なメロディーと愉快的な歌詞で構成されているので、子どもたちは、身体表現などを取り入れ楽しく活動へ入っていきける。また、心情や場面の様子をイメージ豊かに膨らませながら、本題材の課題に主体的に向かってくいだろうと考える。

次に、「おかしなすきなまほう使い」の歌の中にいろいろな呪文を工夫して入れる活動から、呪文を声で楽しく表現することや曲の間に入れて歌うおもしろさを体験するようにしていきたい。そのことが、生き生きとした活動を進めるための意欲付けとなるであろう。

「おばけなんてないさ」では、歌い方を工夫する活動を通して、「場面の様子を表現したい」という課題につなげたい。

おばけの音づくりでは、自分が表現してみたいおばけのイメージを絵や言葉で表す活動をすることによって、イメージがさらに広がり意欲的に活動するようになるであろう。また、できるだけ多くの楽器や身の回りの音素材を自由に試奏したり、お互いに音を聴き合って話し合ったりすることにより、イメージが表れるような表現ができるように助言していきたい。そして、一人一人が考えた「おばけやしき」の音を、グループで「おばけやしき」の場面に合うような音になるようにつなぎ録音したテープを聴き、見直すことで本時の課題にせまりたい。できた作品を「おばけなんてないさ」の歌の間に入れて楽しく歌うことにより、自分たちの作品に対する満足感を味わってくれることを期待している。

さらに、自分の個性を大いに発揮して、音楽の楽しさや美しさを感じ取るとともに、心から音楽を好きになって欲しいと願っている。

### 3. 題材の目標

- ・音探しや音づくりをすることに興味をもち、歌詞の内容から様子を想像して声や音で表現しようとしている。
- ・楽器や身の回りの音素材から自分のイメージに合う音を探し、音色や表現の仕方を工夫して場面の様子を音で表現する。

### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- ・歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫する。〈身体表現しながら歌う、様子を想像しながら歌う〉
- ・即興的にイメージに合う表現を工夫する。〈声や楽器、身の回りの音素材を使って音を工夫する〉
- ・友達の表現の工夫のよさに気を付けて聴く。〈グループ発表、意見交換〉

5. 教材

- (1) 「ゲゲゲの鬼太郎」「魔法使いサリー」他  
いずれも子どもたちに人気のあるアニメの主題歌で、歌詞がユニークで親しみやすく、メロディーも覚えやすい軽快な曲であるため身体表現にも抵抗なく取り組める教材である。
- (2) 「おかしなすきなまほう使い」 秋葉てる代 作詞 大熊崇子 作曲  
魔法を使える少々あわてんぼうな女の子の様子をユーモラスに描いた歌詞によって、子どもたちが容易にイメージを膨らませ、無理のない即興活動が経験できる教材である。
- (3) 「おばけなんてないさ」 榎みのり 作詞 峯陽 作曲  
子どもたちの「おばけ」に対する心境をユーモアたっぷりに描いた歌詞である。歌詞から場面を想像して歌い方や身体表現などを工夫し、幅広い表現活動が行える教材である。

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 音探しや音づくりすることに興味をもち、様子を想像しながら進んで表現しようとしている。(観点①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞やリズムのおもしろさを感じ取って歌おうとしている。</li> <li>・おばけのイメージに合った音を出す楽器や身の回りの音素材などを進んで探そうとしている。</li> </ul>	身体表現 表情 グループ活動の様子
イ. 歌詞や旋律から様子や気持ちを想像し、音をついたり、演奏の仕方を工夫したりしている。(観点②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の表す様子を想像し、イメージを広げた歌い方を工夫しようとしている。</li> <li>・楽器や身の回りの音素材などを使って、おばけのイメージに合う音を工夫して表現している。</li> </ul>	演奏 学習カード 作品
ウ. 歌詞に登場するもののイメージに合うような音やリズムで表現している。(観点③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おばけのイメージに合う音を楽器や身の回りの音素材などを生かして効果的に表現している。</li> </ul>	演奏
エ. 友達の表現する音や表現の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとしている。(観点④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のおばけのイメージに合う表現を見つけながら聴こうとしている。</li> </ul>	つぶやき 発言

7. 題材指導計画 (7時間扱い 本時7/7)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第 一 次	歌詞やリズムのおもしろさを感じ取って歌ったり、声で即興的に魔法使いの呪文のイメージに合った音をつくったりする。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魔法使いに関する歌や「ゲゲゲの鬼太郎」の歌を身体表現しながら楽しく歌う。</li> <li>・感じ取った曲想について話し合う。</li> <li>・魔法使いについて知っていることを話し合う。</li> <li>・「おかしなすきなまほう使い」の歌詞のおもしろさを感じ取り、様子を想像しながら歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞やリズムのおもしろさを感じ取って歌おうとしている。 〈標準ア〉 (身体表現、表情)</li> </ul>	ゲゲゲの鬼太郎 魔法使いサリー 他  おかしなすきなまほう使い
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呪文をかけるときの身体表現をしながら伸び伸びと歌う。</li> <li>・魔法使いの呪文のイメージに合う音を声で即興的につくって表現する。</li> <li>・声でつくった音を前奏や間奏に入れた楽しい歌い方を考える。</li> <li>・友達の発表を聴き、表現の工夫を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の表す様子を想像し、イメージを広げた歌い方を工夫しようとしている。 〈標準イ〉 (演奏、学習カード)</li> </ul>	
第 二 次	楽器や身の回りの音素材を工夫して、自分のイメージに合ったおばけの音をつくり、伸び伸びと表現する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おばけの話や怖い体験について話し合う。</li> <li>・範唱を聴き、リズムにのって楽しく歌う。</li> <li>・歌詞から物語の内容をとらえ、自分なりの歌い方で表現する。 身体表現 交互唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おばけのイメージに合った音を出す楽器や身の回りの音素材などを進んで探そうとしている。 〈標準ア〉 (グループ活動の様子)</li> </ul>	おばけなんてないさ
		4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年〇組のおばけやしきの計画を立てる。</li> <li>・音づくりを行う場面を決める。</li> <li>・場面を絵にかき、音づくりの分担を話し合う。</li> <li>・おばけのイメージに合う音が出る楽器や身の回りの音素材などを探す。</li> <li>・おばけやしきのイメージに合う音をグループで工夫してつくる。</li> <li>・音の出し方を試奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器や身の回りの音素材などを使って、おばけのイメージに合う音を工夫して表現している。 〈標準イ〉 (作品、学習カード)</li> <li>・おばけのイメージに合う音を楽器や身の回りの音素材などを生かして効果的に表現している。 〈標準ウ〉 (演奏)</li> </ul>	
第 三 次		7 へ 本 時 〜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのおばけのイメージに合う音づくりに工夫を重ねる。</li> <li>・グループごとに発表し、聴き合う。</li> <li>・自分たちのつくった音を「おばけなんてないさ」の歌の間奏に入れて歌い、楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のおばけのイメージに合う表現を見つけながら聴こうとしている。 〈標準エ〉 (つぶやき、発言)</li> </ul>	

8. 本時の展開 (第二次 7時)

◦目標 自分たちのおばけやしきのイメージに合った音づくりをして発表し合う。

学 習 過 程	子 ど も の 活 動
1. 生き生きと歌い、学習への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カランコロンのうた」を楽しく歌う。</li> <li>・「おかしのすきなまほう使い」に魔法をかけるときの呪文を入れて歌う。</li> </ul>
2. 自分たちの願いをもち学習の見通しを立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の自分たちの「おばけやしき」の音を聴いて、さらにいい音にするめあてを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     自分たちの「おばけやしき」の音をつくりあげ、発表しよう。                 </div>
3. 自分たちのイメージに合う音づくりに工夫を重ねる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループになって活動する。</li> <li>・前時に録音したテープを聴き、音をもう一度見直して、自分たちの「おばけやしき」の音に工夫を重ねる。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に合った音づくりをしよう</li> <li>・強弱に気を付けて音を出そう</li> <li>・どんな音素材を使って表現しようか</li> <li>・他に工夫することはないだろうか</li> </ul> </li> </ul>
4. 友達の表現のよさを見つけ、お互いに認め合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのおばけのイメージを説明し、発表する。</li> <li>・他のグループの工夫していることを見つける。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・音のつながり方が場面にあっていた</li> <li>・強く打って出したあの音で驚いた</li> <li>・弱く出した音が不気味だった</li> <li>・あの楽器があんなふうに見えるのか</li> <li>・あの手作り楽器の工夫がおもしろい</li> <li>・音の大きさが場面の雰囲気合っていた</li> </ul> </li> </ul>
5. みんなで歌や演奏を楽しみ、成就感を味わう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくった音を「おばけなんてないさ」の歌の間に入れて歌う。</li> </ul>

めざす子どもの姿	教師のかかわりと評価(☆)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習を思い出し、楽しく歌う姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までに学習したことを思い出すとともに、楽しく歌うことで学習に取り組もうとする意欲づくりをする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいをつかみ、音づくりに意欲をもって取り組もうとする姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ音を出すというのではなく、「おばけやしき」が思い浮かぶような表現になるよう子どもたちの気持ちを盛り上げていく。</li> <li>・子どもたちが自分たちのおばけに対するイメージを大切に、活動に取り組めるよう支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音を見直し、自分たちの「おばけやしき」の音に工夫を重ねる姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が進まないグループには、自分たちのおばけに対するイメージや表現を見直すように助言する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発表を集中して聴く姿</li> <li>・他のグループの工夫を見つけようとする姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴き合って認め合う場面を設けることにより、音づくりができた満足感を味わうことができるようにする。</li> <li>・音の強弱や組み合わせ、音素材の使い方を工夫しているグループに気付くようにする。</li> </ul> <p>☆友達のおばけのイメージに合う表現を見つけながら聴こうとしている。 (規準工) (つぶやき、発言)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくった音を入れて楽しく歌う姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏に気をとられ声が小さくならないように助言する。</li> <li>・演奏を入れるタイミングがうまくとれるように支援する。</li> </ul>

## 第4学年1組 音楽科学習指導案

指導者 佐藤みゆき (T<sub>1</sub>)

指導者 伊藤 紀子 (T<sub>2</sub>)

1. 題材 弥兵衛物語を音楽で表そう

### 2. 題材設定の意図

(1) 4年生も終わりの時期になると、音や音楽に対する感性も次第に鋭敏なものとなり、自分のイメージした音を求めて、いろいろな声や楽器、音素材を使って表現することができるようになってきている。また、主体的に音楽を構成していこうとしたり、協力して表現を工夫していこうとしたりする時期でもある。

このような時期に、「物語を音楽で表そう」という題材を設定することで、みんなで音楽をつくったり演奏したりする喜びを味わうとともに、互いに協力することの大切さを感じ取りながら、生き生きとした自己表現活動を実現していくことができると考えた。物語の内容を表す歌詞や旋律から曲想を感じ取り、情景や心情が聴き手に伝わるような表現の仕方を工夫することは、音を通して子どもたちの感性をいっそう豊かなものにし、創造性を高めていくと思われる。本題材では、地域開拓者「周藤弥兵衛」の実話を通して物語を音楽で表していきたい。

通称「切り通し」と呼ばれる小さな溪谷や、そこを切り開いた周藤弥兵衛の物語は、同じ地域に住む子どもたちにとってなじみ深く、場面の様子や弥兵衛の心情をイメージ豊かに膨らませ、楽しく表現活動ができるのではないかと考える。

(2) 1学期に「様子を思いうかべて歌おう」で風の音、草木のゆれる音、鳥の鳴き声、鐘の音といった自然音や朝のイメージを音で表す活動をしてきた。2学期には、「つるのおん返し」の学習で、雪の降る音、風の吹く音、つるのはばたきの音、いろりの燃える音など情景や場面の様子を音で表現してきた。

内容は擬音がほとんどであったが、ごく身近にあるアルミ缶やシーツ、かさなどを使った簡単な手作り楽器を中心に、一人一人が自分のイメージをもとに様子を表現することができた。しかし、音はやや単発的であり、くり返したり重ねたりして変化をもたせるよう支援を重ねたが、定着するまでには至らなかった。

(3) 本題材の出会いとして、まず、いたちくんの動きや心情の変化がたくみに音楽表現されている「いたずらっ子のいたちくん」を聴くことにより、曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、イメージを膨らませる場を設定する。そこから、音楽は表現の工夫で、心情や場面の様子をさまざまに表すことができることに興味・関心をもつようにしたい。そして、子どもたちにとって身近な郷土開拓者、周藤弥兵衛の実話をもとに作ったオリジナル曲「弥兵衛物語」を軸に、「弥兵衛物語を音楽で表そう」という課題づくりへ発展させていきたい。

周藤弥兵衛については社会科教材「郷土を守る人々」と並行して学習していく。ここで歴史的事実に加え、弥兵衛の心情を十分におさえたい。子どもたちの表現意欲が喚起され

る場面としては、意宇川が大雨のたびに水量を増し、それが剣山にぶつかって洪水をひきおこす場面、固い剣山の岩をくだく場面、山が貫通し水が流れ出した喜びの場面などが予想される。川の水の音やつちをふりかざす音などの自然音などは、子どもたちが音として具体化するためのイメージをもたせやすいのではないかと考える。

活動にあたっては、まず、物語の中から表現したい部分を拾い出し、自分なりに工夫する場をもつ。「この音がいい。」「こうするともっといい。」といったつくる過程の試行錯誤を大切にしていきたい。さらに、友達と話し合い、聴き合い、協力しながらより質の高い音づくりを目指したい。そして、単発的であった擬音づくりから物語の心情により近づくための効果音づくりへと発展したい。

さらに、今まで学習してきた音づくりに加え、弥兵衛の心情にせまる手だてとしては、物語を今一度想起させるための絵などを効果的に利用していこうと考えている。

そして、最後の、人々が協力し合いついに山が貫通する場面では、グループで群読を取り入れ、気持ちを込めて朗読したり、「弥兵衛物語」の歌を高らかに歌いあげたりして物語のクライマックスを盛り上げていきたい。

なお、本学級の音楽の指導にあたっては、学級担任 (T<sub>1</sub>) と音楽専科 (T<sub>2</sub>) の二人で行うT・T方式をとっている。T<sub>1</sub>は主として、伸び伸びと自己が表現できる学級づくり、子どもづくりを中心に行い、専門性を要する内容に関しては、T<sub>2</sub>が行っている。

この題材は、社会科で学習する内容と並行しているため、周藤弥兵衛に関する歴史的内容やそれを支えた心情などに関してはT<sub>1</sub>が行う。そして、子どもたちがそれぞれの持ち場に分かれて音づくりをする場面での専門的な音に関するアドバイスや歌声指導、演奏に関する技術指導はT<sub>2</sub>が行い、意欲の喚起やグループ活動を円滑に行うための支援等はT<sub>1</sub>が行ってほしい。

### 3. 題材の目標

- ・物語や歌詞の内容から場面の様子を想像し、擬音、効果音などを使って楽しく表現する。
- ・場面の様子、心情の変化に合った音をつくるための楽器の選択や表現の仕方を工夫する。
- ・音楽から場面を想像したり、曲想を感じ取ったりして聴く。

### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- ・音楽を聴いて物語の場面の様子や、心情の変化を想像する。〈音楽を聴いて物語をつくる〉
- ・場面の様子を音で表現する。〈擬音づくり、効果音づくり、手作り楽器の工夫、群読、朗読〉
- ・友達の表現を感じ取って聴く。〈グループ発表会、意見交換〉

5. 教材

(1) 「いたずらっこのいたちくん」 カイエ 作曲

描写風の音楽で、次々と変化していく曲想が、いたちくんの動きをほうふつとさせる。いろいろな楽器の音が聴き取りやすく、また、擬音風にも用いられているので、子どもたちにとって興味深く聴くことができる。

(2) 「弥兵衛物語」

当地、八雲村の郷土開拓者「周藤弥兵衛」の実話をもとにしてつくったオリジナル曲である。場面の内容に合わせ、3つの曲から構成されている。1曲目は洪水の場面、2曲目は岩を砕く場面、3曲目は山が貫通した喜びを表したものである。

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 物語を音楽で表現することに興味をもち、進んで表現しようとしている。(観点①)	・友達と協力しながら活動している。 ・場面に合った音を進んでつくろうとしている。	表情 活動 態度
イ. 場面の様子、心情の変化に合った音をつくるための楽器の選択や表現の仕方を工夫している。(観点②)	・場面の様子や心情の変化にあった音づくりを工夫している。	試奏 活動
ウ. 場面の様子、心情の変化がよく分かるように歌ったり演奏したりしている。(観点③)	・場面の様子、心情の変化が分かるよう気持ちを込めて歌ったり演奏したりしている。	表情 演奏
エ. 友達の表現のよいところや工夫しているところを感じて聴いている。(観点④)	・友達の表現を聴き、よいところや工夫しているところを感じ取っている。 ・音楽を聴いて音楽に合う物語をつくっている。	発言 学習カード

7. 題材の指導計画 (8時間扱い 本時8/8)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第 一 次	音楽から場面を想像したり曲想を感じ取ったりして聴く。	1	・様子を思い浮かべながら聴く。 ・場面の様子を想像し、お話をつくる。	○音楽を聴いて、音楽に合う物語をつくっている。 <規準イ> (学習カード)	いたずらっこのいたちくん 弥兵衛物語
	場面に合う音を工夫し、表現する。	2	・「弥兵衛物語」を読む。 ・場面の様子について話し合い、学習の計画をたてる。 ・物語をもとに場面を分け、分担グループを決める。 3 ・「弥兵衛物語」を歌う。 ・ 4 ・場面の様子を音で表現する。 5 ・擬音づくり ・効果音づくり 6 ・手づくり楽器 ・群読 ・朗読 ・ 7 ・グループで工夫した音を発表し合い、よさを認め合ったりアドバイスをしたりする。 ・ 8 ・気持ちを込めて演奏できるように試奏する。 へ 本 時 時 々 ・気持ちを込めて「弥兵衛物語」を演奏する。	○友達と協力しながら活動している。 <規準ア> (活動) ○場面の様子や心情の変化にあった音づくりを工夫している。 <規準イ> (試奏) ○友達の表現を聴きよいところや工夫しているところを感じ取っている。 <規準エ> (発言) ○場面の様子、心情の変化が分かるよう気持ちを込めて歌ったり、演奏したりしている。 <規準ウ> (演奏) ○場面に合った音を進んでつくろうとしている。 <規準ア> (態度)	

8. 本時の展開 (第二次 8時)

・目標 弥兵衛の思いにせまり、その気持ちが聴く人に伝わるように演奏する。

学習過程	子どもの活動	めざす子どもの姿
1. 楽しく学習していく雰囲気をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の気持ちを感じて歌っている姿</li> </ul>
2. 自分たちの思いをもち学習のめあてをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵を見ながら場面の様子を思い出す。</li> <li>前時の演奏(録音)を聴き、感想を話し合う。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ナレーション</li> <li>音の大きさ</li> <li>合わせるタイミング</li> </ul> </li> <li>感想をもとに学習のめあてをもつようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     ぼくたちの弥兵衛物語を演奏しよう                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>真剣に物語を聞き、弥兵衛の気持ちを思い起こしている姿</li> <li>課題に向かって真剣に試奏を重ね、音を確認する姿</li> </ul>
3. 自分たちの表現した音を気持ちを込めて演奏しようと工夫を重ねる	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちを込めて演奏できるよう試奏する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ナレーションは間を取り気持ちを込めて朗読しよう。</li> <li>テンポは、適当かな。</li> <li>音の重なりは、これでいいかな。</li> <li>強弱をつけてメリハリをつけよう。</li> <li>合わせるタイミングは、これでいいかな。</li> <li>音色はこれでいいかな。</li> <li>出だしをもっとはっきりしよう。</li> <li>音の高さはこれでいいかな。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と追究している姿</li> <li>場面の様子や弥兵衛の心情を生き生きと表現している姿</li> <li>試奏を聴き合う姿</li> </ul>
4. 演奏し、成就感に浸る	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで作った「弥兵衛物語」を演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏を楽しんでいる姿</li> </ul>

教師のかかわりと評価(☆)	
T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>
<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の気持ちを大切にしながら歌い、子どもといっしょに楽しむ。</li> <li>用意した絵を提示し、心を込めて朗読することにより物語を想起し、弥兵衛の気持ちに立ち返るようにする。</li> <li>前時の演奏を聴くことで、自分たちで課題を見つける手立てとする。</li> <li>ナレーションにつまずいている子どもには情景をもう一度想起し、間の取り方や抑揚に気を付けるよう助言する。</li> <li>真剣に学習していない子どもに対しては、つまずきを把握し、適切なアドバイスをする。</li> <li>グループ全員でつくりあげるよう声がけする。</li> <li>☆場面合った音を進んでつくろうとしている。〈規準ア〉(態度)</li> <li>弥兵衛の思いが聴く人に伝わるように、思いを込めて演奏するよう助言する。</li> <li>教師も共に演奏することで成就感を支援する。</li> <li>☆場面の様子、心情の変化が分かるように気持ちを込めて歌ったり演奏したりしている。〈規準ウ〉(演奏)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに合った音域の伴奏をし、声を出しやすくする。</li> <li>曲の感じを生かした伴奏をすることで表情豊かに歌うよう支援する。</li> <li>子どもたちの気付かなかった課題については助言する。</li> <li>音楽的要素を具体的に明確に押さえる。</li> <li>他グループとのつながりのタイミングが合わないグループには、お互いが音を聴き合ったり、合図を考えて演奏するよう助言する。</li> <li>弥兵衛の思いを表すには、テンポや強弱、〈 〉が大事なポイントになることを助言する。</li> <li>聴き手を意識した表現の深まりがほしいグループには、情景をもう一度思い浮かべ、場にふさわしいものをつくるよう助言する。</li> <li>多様な表現の工夫に必要なバチや楽器を用意しておく。</li> <li>一人一人の工夫した音が生きるよう支援する。</li> <li>思いを込めて伴奏をすることで表情豊かに歌うよう支援する。</li> <li>☆場面の様子、心情の変化が分かるように気持ちを込めて歌ったり演奏したりしている。〈規準ウ〉(演奏)</li> </ul>

## 第5学年2組 音楽科学習指導案

指導者 林 和博

### 1. 題材 日本のふしに親しもう

#### 2. 題材設定の意図

(1) 日本各地には、古くから歌い継がれてきたわらべうたや民謡がある。また、民俗芸能や祭りの場で演奏されているおはやしもある。これらは人々の暮らしの中から生まれ、伝えられてきた伝統音楽である。しかし、子どもたちの生活の現状を見ると、様々な音楽文化にふれる機会が多いにもかかわらず、こうした日本の伝統音楽にふれる機会は少なくなってきた。

子どもたちは、高学年になると心で音楽を感じる内面的な傾向が強まってくる。そして音楽に対する感覚的な能力とともに、分析的にとらえる力も伸び、楽曲全体が醸し出す曲想を要素の面からとらえ、追究していくことができるようになる。また、日本の音楽を特徴付けているふしやリズムを感じ取り、興味関心をもって取り組むことができると考えられる。生涯教育の観点からも、郷土の音楽に親しみ、日本のふしのよさを味わい大切に育む心情を育てることが大切であると考え本題材を設定した。

(2) 本学級の子どもたちは、地域の行事を通して郷土の音楽にふれる機会をもっている。中には、祭りの笛を吹いたり、雅楽に合わせて巫女舞をしたりした経験のある子どもたちもいる。また、田植え歌や紙すき歌など、地域の生活と結び付いた仕事歌などもあり、郷土の音楽に親しむ環境の中にある。しかし、子どもたちの多くは、日本の伝統的なふしを意識しているわけではなく、そのよさに気が付いたり、進んで楽しさを味わったりするまでにはいたっていないように思われる。

子どもたちにアンケートした結果では、日本の音楽としてあげられたものは、琴や三味線など和楽器で演奏された曲、滝廉太郎の歌曲、演歌などであり、民謡やわらべ歌は少なかった。イメージとしては、のどかな、楽しいというものもあったが、暗い、さみしいというものが多かった。この結果からも、子どもたちは、日本のふしを自分たちの生活に身近なものとしてはとらえていないことがうかがえる。そこで、このような子どもたちがこの学習を通して何気なくふれている郷土の音楽を再確認し、日本のふしに進んで親しむようになってほしいと考える。

(3) 指導にあたっては、まず自分たちが日頃何気なく聞いている物売りの売り声や相撲の呼び出しなどが日本のふしだということに気付くことから始めたい。日本のふしが身近なところに息づいている事実は子どもたちをゆさぶり、学習に主体的に取り組む意欲を引き出すだろう。さらに、日本に伝わるいろいろな民謡やわらべ歌を聴いたり歌ったりすることにより、民謡やわらべ歌の成り立ちに関心を持ち、遊び歌や踊り歌、仕事歌などがあることに気付くようにしたい。

そして、仕事歌の一つとして、まず「子もり歌」を紹介し、さらに、本地域の伝統工芸

「出雲和紙」を素材にした「紙すき歌」を学習に取り入れていく。子どもたちは、社会科で「出雲和紙」について学習したり、実際に手すき和紙づくりに取り組んだりしているので、その仕事の様子や働いている人の気持ちを想像するなど、仕事歌のもつ意味を感じ取り、より深く味わうことができると考えられる。そのような仕事歌に親しんだ後、「管弦楽のための木挽歌」の鑑賞に入っていきたい。

「管弦楽のための木挽歌」の鑑賞では、楽器の音色やリズム、旋律から日本のふしの特徴を感じ取るようにする。実際に木を挽いてみたり、演奏している楽器の音色を確かめたり、旋律を演奏したりして、情景を豊かに想像しながら聴いていけるようにしたいと考える。

#### 3. 題材の目標

- 日本のふしに関心を持ち、意欲的に聴いたり表現の仕方を工夫したりする。
- 日本のふしの特徴を生かし、その響きを味わいながら歌ったり演奏したりする。
- 日本のふしやリズムの特徴を感じ取り、楽曲の表現している情景を想像しながら聴く。

#### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- 日本のふしの特徴をつかむ。〈身の回りにある日本的なふし調べ、民謡やわらべ歌の鑑賞、「子もり歌」の歌唱、日本の音階を使ったふしづくり〉
- 地域の仕事歌に親しむ。〈「紙すき歌」の歌唱・擬音づくり〉
- 日本のふしの特徴を感じ取り、管弦楽の楽器に親しむ。〈「管弦楽のための木挽歌」の鑑賞〉

#### 5. 教材

##### (1) 「子もり歌」 日本古謡

旋律やリズムがごく自然で美しく、子どもたちに親しみやすい曲である。歌詞も平易で情感にあふれており、気持ちを込めて歌うことができる。また、古くから日本人に伝えられてきた風俗や心情にふれることもできる。そして、陽音階と陰音階の味わいの違いに気付きながら、日本の音楽に親しむことのできる教材である。

##### (2) 「管弦楽のための木挽歌」 小山清茂 作曲

九州地方の民謡である「木挽歌」を主題とする一種の変奏曲である。民謡が誕生し広まっていく様子が描写的に4部で構成されている。この楽曲は、管弦楽の作品として書かれたものであるが、日本の音楽がもつ雰囲気や響きをよく表現しており、日本のふしへの興味関心を高めるのに効果的な教材である。

(3) 「紙すき歌」

紙すきは、本地域で行われている伝統工芸である。その紙すきのときに歌われる仕事歌は、地域の伝統文化に親しみ、その雰囲気味わうことのできる地域の生きた教材である。

(4) 物売りの売り声・相撲の呼び出し・民謡・わらべ歌

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 日本のふしに関心をもち、進んで聴いたり歌ったり演奏したりしている。 (観点①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のふしに興味をもち、進んで聴いたり歌ったりしようとしている。</li> <li>「子もり歌」のふしに興味をもち、進んで歌ったり演奏したりしようとしている。</li> <li>曲を特徴付けている楽器の響きや旋律に興味をもち、進んで聴こうとしている。</li> </ul>	表情 歌声 演奏 学習カード
イ. 日本のふしやリズムの特徴に気付き、それに合う表現の仕方を工夫している。 (観点②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の音階を使ったふしづくりを工夫している。</li> <li>紙すき歌の工程に合う擬音を工夫している。</li> </ul>	態度 演奏
ウ. 日本のふしの特徴をつかんで歌ったり、演奏したりしている。 (観点③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のふしを感じ取りながら「紙すき歌」を歌っている。</li> <li>日本のふしやリズムを感じながら演奏している。</li> </ul>	歌声 演奏
エ. 楽曲を構成している楽器の響きや旋律を感じ取り、場面の様子を想像しながら聴いている。 (観点④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲を特徴付けている楽器の響きや旋律から、情景を豊かに想像して聴いている。</li> <li>楽器の響きや旋律の美しさ、曲の構成のおもしろさを感じ取って聴いている。</li> </ul>	発言 学習カード

7. 題材指導計画 (9時間扱い 本時7/9)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材
第一 次	日本のふしに関心をもち、その特徴をつかむ。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>売り声や呼び出しなど身の回りにある日本的なふしを見つける。</li> <li>旋律を歌ったり演奏したりする。</li> <li>日本に伝わる民謡やわらべ歌を聴いたり、歌ったりする。</li> <li>民謡やわらべ歌の成り立ちについて調べ、遊び歌や踊り歌、仕事歌などがあることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のふしに興味をもち、進んで聴いたり歌ったりしようとしている。 (規準ア) (表情、歌声)</li> </ul>	民謡わらべ歌 売り声 呼び出し
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの「子もり歌」(日本古謡・シューベルト)を聴き比べる。</li> <li>日本のふしを感じながら「子もり歌」を歌う。</li> <li>二つの「子もり歌」(陽と陰)を歌って、曲の感じの違いを感じ取る。</li> <li>子もり歌に使われている音を調べ日本の音階に気付く。(陽音階)</li> <li>日本の音階を使って、即興的にふしをつくる。</li> <li>つくったふしをリレーして、一つの大きなふしにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子もり歌」のふしに興味をもち、進んで歌ったり演奏したりしている。 (規準ア) (表情、歌声、演奏)</li> <li>日本の音階を使ったふしづくりを工夫している。 (規準イ) (態度、演奏)</li> </ul>	
第二 次	自分たちの地域にある仕事歌に関心をもち、親しむ。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元で伝わる紙すきの様子のVTRを見ながら「紙すき歌」を聴く。</li> <li>紙をすく人の気持ちや情景について話し合う。</li> <li>「紙すき歌」を歌ったり、リコーダーで演奏したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のふしを感じ取りながら「紙すき歌」を歌っている。 (規準ウ) (歌声)</li> </ul>	紙すき歌
		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙すきの工程ごとにグループに分かれ、工程に合う擬音を工夫する。</li> <li>歌と歌の間に擬音を入れてつなぎ一つの「紙すき歌」にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙すき歌の工程に合う擬音を工夫している。 (規準イ) (態度、演奏)</li> </ul>	
第三 次	楽曲を特徴づけている楽器の響きや旋律の美しさから日本のふしの特徴を感じ取る。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「管弦楽のための木挽歌」第1部の情景を想像しながら聴く。</li> <li>演奏されている音からイメージスコアをつくる。</li> <li>実際に木を切り、木挽の音を確認する。</li> <li>いろいろな楽器で旋律を演奏し、違いを話し合う。</li> <li>演奏している楽器や旋律に注目しながら第1部をLDで視聴する。</li> <li>第2部の情景を想像しながら聴き「木挽歌」が盆踊り歌になった様子が表されていることを知る。</li> <li>第2部が和太鼓群と管楽器の独奏の組み合わせでつくられていることを知り、楽器で演奏してみる。</li> <li>第2部は第1部が発展したものであることを感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲を特徴付けている楽器の響きや旋律に興味をもち、進んで聴こうとしている。 (規準ア) (表情、学習カード)</li> <li>曲を特徴付けている楽器の響きや旋律から、情景を豊かに想像して聴いている。 (規準エ) (発言、学習カード)</li> </ul>	管弦楽のための木挽歌
		7	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3部と第4部を聴き比べ、どちらが「朝の町のにぎわいの中で歌われる木挽歌」で、どちらが「人々の心の中で生きる木挽歌」を表した音楽かを想像する。</li> <li>全曲を通して聴き、曲の構成を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のふしやリズムを感じながら演奏している。 (規準ウ) (演奏)</li> <li>楽器の響きや旋律の美しさ、曲の構成のおもしろさを感じ取って聴いている。 (規準エ) (発言、学習カード)</li> </ul>	
		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3部と第4部を聴き比べ、どちらが「朝の町のにぎわいの中で歌われる木挽歌」で、どちらが「人々の心の中で生きる木挽歌」を表した音楽かを想像する。</li> <li>全曲を通して聴き、曲の構成を感じ取る。</li> </ul>		

8. 本時の展開 (第三次 7時)

◦目標 擬音や旋律から木挽の仕事をしている情景を想像して聴く。

学 習 過 程	子 ど も の 活 動
1. 音楽的雰囲気をつくり 学習への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲を歌う。</li> <li>歌と歌の間に擬音を入れて「紙すき歌」を歌う。</li> </ul>
2. 自分たちの思いをもち、 学習の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時につくったイメージスコアを見ながら、「管弦楽のための木挽歌」第1部を聴く。</li> <li>音のイメージを話し合い、第1部が擬音と旋律から構成されていることを知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">聴こえてくる音から木挽の仕事を想像してみよう</div>
3. 演奏されている音に親 しみをもち、イメージ を膨らます	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が特に興味をもった音について、確かめたり演奏したりする。</li> <li>実際に木を挽いて、木挽の音を確かめたり、その雰囲気を味わったりする。</li> <li>旋律の部分をいろいろな楽器で演奏してみる。</li> <li>チェロやドラの音を確かめる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>音を確かめたり演奏してみたりして感じたことを話し合う。</li> </ul>
4. 音楽を聴いて美しさを 味わう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「管弦楽のための木挽歌」第1部を旋律や演奏している楽器に注目しながらLDで視聴する。</li> </ul>

めざす子どもの姿	教師のかかわりと評価(☆)
<ul style="list-style-type: none"> <li>情景を想像しながら気持ちを含めて歌おうとしている姿</li> <li>聴こえてくる音に注目しながら聴こうとしている姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習曲を歌うことで、意欲的に学習に取り組もうとする雰囲気づくりをする。</li> <li>地元に伝わる「紙すき歌」を歌うことで、仕事歌のもつ感じをつかむようにする。</li> <li>イメージスコアを見ながら聴くことで、この曲が擬音と旋律の組み合わせでできていることを確かめる手立てとする。</li> <li>木挽の仕事についても簡単にふれるようにし、情景を想像する支えとする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の音色に注目して音を確かめようとしている姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に興味をもった音について確かめることができるように、それぞれのコーナーをつくっておく。</li> <li>木挽の鋸を使い実際に木を挽いてみることで、その音を感じ取る手立てとする。</li> <li>チェロ以外の楽器で演奏したものと比べることにより、チェロが使われている意味に気付くようにする。</li> <li>チェロやドラの実物を用意することで、その音色を感じ取る支えとする。</li> <li>使われている楽器の音色や旋律から、情景を想像できるようにしていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の響きや旋律から情景を想像して聴こうとしている姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏場面の映像を見ることで、木挽の様子を表している音がどんな楽器で演奏されているのか確かめる手立てとする。</li> </ul> <p>☆曲を特徴付けている楽器の響きや旋律から、情景を豊かに想像して聴いている。</p> <p>〈規準エ〉(発言、学習カード)</p>

## 第6学年2組 音楽科学習指導案

指導者 勝部恵美子

### 1. 題材 行ってみよう宇宙へ (様子を思い浮かべて表現しよう)

#### 2. 題材設定の意図

(1) 高学年になると、心身ともに発達し、音楽的能力が総合的に高まってくるとともに、音楽に対する感情面での反応も豊かになる。子どもの感性に働きかけ、これまでに培ってきた音楽的な表現の技能を総合的に駆使していけるような活動の場を設定すれば、想像の世界を豊かに音や音楽につくって表現できると思われる。

そこで本題材「行ってみよう宇宙へ」を設定した。本題材は、情景を想像しながら音楽を味わったり、自由な発想でイメージ豊かに表現の工夫をしたりすることが主なねらいである。星空の観察学習やスペースシャトル打ち上げのニュースなどにより宇宙への興味関心が高まるなか、何光年という距離にある“遠い未知の世界”宇宙は、子どもの想像力をおおいにかき立てるであろう。また、身近にあるさまざまな音の響きを表すのと異なり、体験のないイメージを音で表すという活動が多く入ることにより、子どもの音選びの工夫はいっそう広がりや深まりをもつであろう。宇宙の音楽づくりは、この時期の子どもが多様な音楽表現を追究して創造的活動に取り組むのにふさわしい題材であると考えられる。

また、卒業を間近にして夢が大きくはばたこうとしているとき、広大な宇宙空間に思いをはせ、その神秘やロマンを音楽経験を通して感じ取ることは、情操面でも意義深いと考えられる。

(2) 本学級の子どもは、進んで音楽活動に取り組み、特に歌唱表現には意欲的で、授業の中でも日常生活の中でも、合唱を楽しんだり愛唱歌を口ずさんだりする姿がよく見られる。表情豊かに頭声的発声で歌える男子が多く、全体に美しい声の響きが出せるようになってきている。

つくって表現する活動は、主に5年生での「変奏曲づくり」6年生での「夏の海辺の一日を表現しよう」を経験している。

海辺の一日の音楽づくりを通して、メロディを重ねる工夫やつなぐ工夫、いろいろな楽器の効果的な使い方などを学んだ子どもたちは、音に対する感覚が鋭敏になり、音楽の美しさ楽しさをより深く味わえるようになったと思う。また一人一人が互いの考えを出し合い教え合いながら自分たちの音楽をつくり上げ、それを演奏したり聴き合ったりしたことの喜びや満足感は大きく、表現活動への意欲も高まってきている。

ただ、つくる過程で、一人一人のイメージが豊かに広がってもそれをグループでまとめていこうとすると話し合いがうまくいかず、活動が停滞する場面も見られた。個が集団の中で十分に生かされるように、グループの意図やつまづきをしっかり把握し、適切な助言や指導をしていきたい。

また、音楽的能力はもっていても、友達の呼びかけや指示をじっと待っていて、主体的

な行動ができにくい子どもも見られる。一人一人が自由な発想で即興的に表現する場がかかわりを密にし、自信をもつように支援していきたい。

(3) 歌唱表現が好きな子どもの実態から、宇宙にちなんだ曲「星空はいつも」の二部合唱から入ろうと思う、歌詞を大切に、宇宙の写真やビデオ映像を見ながら、宇宙のイメージを十分に膨らませていきたい。

次に、「木星」と「アポロンのまわりで」の比較鑑賞をとおして、音楽が表す情景を想像するとともに、同じ宇宙を題材にした曲でも作曲者によって表現の仕方が違うことをとらえ、多様な表現方法があることに気付かせたい。こうした感受の場から、「宇宙空間のイメージを表す音楽をつくろう」という課題づくりへ発展させていけば、一人一人が自分の描いた宇宙のイメージを進んで表現しようという意欲をもつことができるのではないかと考える。

宇宙の音楽づくりでは、まず宇宙空間のイメージを表す音づくりをし、その響きの上に宇宙でのいろいろなできごとを音で表現したものを重ねていく形で音楽としてまとめていくようにしたい。音づくりの活動では、一人一人の表現したい意図に応じて進んで工夫したり何度もくり返し試みたりできる場を十分に保証していくことが必要である。

子どもたちは、自分のつくった音と友達のつくった音とを重ねたりつないだりして音楽にまとめていく方法や楽しさを、「夏の海辺の一日」の音楽づくりで体験している。この体験を生かして、さらに一人一人の思いがグループ活動の中で生かされるように、グループングやストーリー設定は指導者が枠をつくることを控え、子どもたちの主体性を尊重していくとともに、作曲メモによさを認める言葉や助言を細やかに書き込んで支援していきたい。また録音を聴き合ったりすることで、子ども同士の認め合い高め合いの力もつけていきたい。

#### 3. 題材の目標

- 歌詞の表す情景を想像しながら、曲想を生かして意欲的に二部合唱をする。
- 演奏形態や表現方法の違いに気付きながら、想像豊かに聴く。
- 宇宙空間を想像しながら、自由な発想で即興的に表現する。

#### 4. 学習内容〈及び主な学習活動〉

- 歌詞の内容や美しい旋律を感じながら演奏する。〈二部合唱、二重唱〉
- 情景を自由に想像し、曲想と楽器の音色や響きなどのかかわりに気を付けて聴く。〈聴き比べ〉
- イメージに合う音を選んで、曲の構成や楽器を工夫して音楽づくりをする。〈宇宙空間の音づくり、グループ発表〉

5. 教材

- (1) 「星空はいつも」 芙龍明子 作詞 浦田健次郎 作曲  
 宇宙のロマンティックなイメージをとらえた歌詞と、心にしみる温かい旋律とが一体化した二部合唱曲である。歌詞の表す情景を想像しながら作詞者の宇宙へのロマンに共感して美しい響きで歌える曲である。
- (2) 「木星」 ホルスト 作曲  
 組曲「惑星」の中の一曲で、「喜びの神」という副題がつけられている。大規模な管弦楽曲による立体的、色彩的な宇宙の表現を味わえる曲である。
- (3) 「アポロンのまわりで」 新実徳英 作曲  
 即興的な手法によってつくられていて、シンセサイザーやコンピューターを中心にして演奏された神秘的な作品である。「木星」との比較鑑賞により、はっきりした旋律やリズムのない無調整の近代音楽のおもしろさや音色の魅力に気付くことができる。「つくって表現する」活動の足がかりとするのに適している。

6. 題材における評価計画

評価規準	評価項目	評価方法
ア. 旋律やリズムのはっきりしない音楽のおもしろさに気付き、意欲的に宇宙のイメージを音で表現しようとしている。(観点①)	・旋律やリズムのはっきりしない音楽のおもしろさや、音色の魅力に気付いて、自分たちもつくろうとしている。	表情 学習カード
イ. 宇宙空間のイメージに合う音を見つけ、表現の工夫をしている。(観点②)	・宇宙空間のイメージに合う音を選んでいる。 ・宇宙の出来事を楽器を選んで即興的に表現している。	学習カード 試奏 グループ活動の様子 態度
ウ. 自分のイメージをもとに即興的に音楽で表現したり響きのある声で歌ったりしている。(観点③)	・美しい響きで歌っている。 ・宇宙の出来事をイメージ豊かに楽器で演奏している。	表情 歌声 演奏 態度
エ. 宇宙の様子を想像しながら曲想を全体的に味わって聴いている。(観点④)	・宇宙の様子を思い浮かべて、曲想を全体的に味わって聴いている。 ・友達の表現した音楽の響きのおもしろさを感じ取って聴いている。	表情 発言 学習カード

7. 題材指導計画 (8時間扱い 本時5/8)

次	ねらい	時	主な学習活動	評価と方法	教材	
第一 次	歌詞の表す情景を思い浮かべながら表情豊かに歌う。	1	・主旋律をルルルで歌って覚える。 ・情景を思い浮かべながら歌詞唱する。	・美しい響きで歌っている。 〈規準ウ〉 (表情、歌声)	星空はいつも	
		2	・副旋律を音程正しく歌う。 ・豊かな響きで二部合唱する。			
第二 次	曲の構成や表現の仕方に気付きながら、想像豊かに聴く。	3	・宇宙の様子を思い浮かべながら「木星」を聴く。	・宇宙の様子を思い浮かべて曲想を全体的に味わって聴いている。 〈規準エ〉 (学習カード、表情)	木星 アポロンのまわりで	
		4	・「アポロンのまわりで」を聴いて、「木星」との表現の違いについて話し合う。			
第三 次	宇宙の様子をイメージしながら自由な発想で即興的に表現する。	5 (本時)	・宇宙空間のイメージに合う四つの音を選んでグロッケンや鉄琴で演奏する。 ・グラスハーブの奏法を知り表現を工夫する。	・宇宙空間のイメージに合う音を見つけている。 〈規準イ〉 (学習カード、試奏)	宇宙の音楽づくり	
		6	・宇宙でのいろいろな出来事を即興的に音で表現する。			・宇宙の出来事を楽器を選んで即興的に表現している。 〈規準イ〉 (グループ活動の様子、態度)
		7	・宇宙空間の音の上にいろいろな出来事の音を重ねて表現する。			・宇宙の出来事をイメージ豊かに楽器で演奏している。 〈規準ウ〉 (演奏、態度)
		8	・宇宙の様子を思い浮かべながら表情豊かに表現したり聴いたりする。			・友達の表現した音楽の響きのおもしろさを感じ取って聴いている。 〈規準エ〉 (表情、発言)

8. 本時の展開 (第三次 5時)

◦目標 宇宙空間のイメージに合った音を選び、工夫して演奏する。

学 習 過 程	子 ど も の 活 動
1. 音楽的雰囲気をつくっていき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情景を思い浮かべて、「星空はいつもを」表情豊かに二部合唱する。</li> <li>・自分が一番思いを込めて歌いたいところを発表したり、一人一人が考えたりする。</li> </ul>
2. めあてを確認して学習への期待感をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アポロンのまわりで」を聴いて、曲の特徴を思い出す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     宇宙空間のイメージを音で表そう！                 </div>
3. イメージに合う表現を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンサンブルオルガンで宇宙のイメージにあった音選びをする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ音に①②③④と書いたシールを貼る。</li> <li>・選んだ音を学習カードの五線に全音符で書き留める。</li> <li>・自分が選んだ音を試奏する。</li> </ul> </li> <li>・選んだ音をグロッケンやビブラフォンで演奏する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1人ずつ、4人でいっしょに</li> </ul> </li> <li>・友達の演奏を聴く。</li> </ul>
4. 友達の演奏を聴いて響きを味わう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラスハープの音と自分たちの選んだ音を重ねて演奏する。</li> <li>・グロッケンだけのときと、グラスハープが入ったときの響きの違いを見つけて聴く。</li> <li>・感想を話し合い、次時への課題をもつ。</li> </ul>

めざす子どもの姿	教師のかかわりと評価(☆)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなといっしょに思いを込めて美しい声で歌っている姿</li> <li>・前時を思い出して曲の特徴を考えている姿</li> <li>・4つの音を見つけて表現しようとしている姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大歌詞や星空の絵を掲示して情景を想像できるようにする。</li> <li>・前時に話し合ったことをカードにして示し、それを手がかりにして音楽づくりについて話し合いを進めるようにする。</li> <li>・音選びの条件を板書して例をあげて説明することにより、本時の学習のめあてを明確につかむようにする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>条件① 宇宙空間のイメージにあった音を4つ選ぶこと。</li> <li>条件② 4つ選んだ音に番号シールを貼り、順に音をくり返すこと</li> </ul> </li> <li>・音が見つけれないでいる子どもには、                             <ul style="list-style-type: none"> <li>手順がわからないでいるのか</li> <li>イメージに合う音を選べないでいるのか</li> <li>見つけた音に自信がもてないでいるのか</li> <li>いろいろ考えて迷っているのか</li> </ul>                             つまずきの原因をとらえて、助言や励ましの言葉をかける。                              ☆宇宙のイメージに合う音を見つけている。                              〈規準イ〉 (学習カード、試奏)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラスハープを使うと、より宇宙空間の音に近づくことを説明し、グラスハープの奏法をいろいろ試すようにする。</li> <li>・各自が選んだ音を同時に自由な速さで演奏するとより宇宙空間が広がることを体験することにより、響きのおもしろさを味わうようにする。</li> <li>・音楽的な雰囲気を大切にするために、開始や終了の合図を指揮で示して、余韻を味わうようにする。</li> <li>・次時は宇宙の出来事をさまざまな音で表してみようと問いかけることで、宇宙の音楽づくりの表現意欲を引き出すようにする。</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の演奏に耳を傾けよさや響きを味わっている姿</li> </ul>	

# 全 体 会 案 内

会場 体育館

全 体 会 (13:00~13:30)

主催者あいさつ 島根県教育庁学校教育課長 小 田 繁 俊

歓迎のことば 八雲村村長 石 倉 徳 章

研 究 発 表 (13:30~14:00)

◦ 学校の概要と研究の基本構想 教務主任 女鹿田 武

◦ 研究の内容 研究主任 澤 次代

全 体 講 評 (14:00~14:10)

島根県教育庁学校教育課長補佐 川 津 啓 義 先生

記 念 演 奏 (14:10~14:20)

金管バンド部 指 揮 勝部恵美子

記 念 講 演 (14:35~15:45)

◦ 演題 「豊かな文化を創造する音楽教育」

◦ 講師 文部省初等中等教育局小学校課 教科調査官

金 本 正 武 先生

あ い さ つ (15:45~15:50)

お 礼 八雲村立八雲小学校長 森 泰

全員合唱 (ママさんコーラスとともに)

指 揮 勝部恵美子

# 全 村 会 案 内

島根県教育委員会

(13:00~13:30) 全 村 会

司 理 田 小 島根県教育委員会事務局 小田 繁 俊  
章 助 倉 石 八雲村村長 石倉 徳 章

(13:30~14:00) 奏 楽 突 冊

瓦 田 眞 丈 田 主 務 課 基 本 的 突 冊 の 要 求  
分 次 幹 事 突 冊 突 冊 の 内 容

(14:00~14:10) 全 村 報 告

主 持 森 啓 三 島根県教育委員会事務局

(14:10~14:20) 奏 楽 念 5 曲

干 美 恵 昭 樹 島根県教育委員会事務局

(14:20~14:35) 全 村 報 告

主 持 瓦 眞 丈 島根県教育委員会事務局

(15:15~15:20) 小 田 繁 俊

奏 楽 森 啓 三 島根県教育委員会事務局

(15:20~15:30) 全 村 報 告

干 美 恵 昭 樹 島根県教育委員会事務局

# 全 体 会 (13:00~13:30)

主催者あいさつ 島根県教育庁学校教育課長 小 田 繁 俊

歓迎のことば 八雲村村長 石 倉 徳 章

研究発表 (13:30~14:00)

研究概要の説明

教務主任 女鹿田 武  
研究主任 澤 次代

- 1 学校の概況
  - ・八雲の子ども
  - ・教育目標と目指す子ども像
- 2 研究主題
  - ・音楽的感性と創造性の可能性とは
  - ・音楽をつくって表現する
- 3 研究仮説
  - ・学習過程の工夫
  - ・個に応じた指導と評価の一体化
- 4 2年間の取り組み
  - ・主題達成のための3つの柱
  - ・研究の経過
- 5 研究の実際
  - ・1年次の実践から
  - ・2年次の実践から
- 6 成果と今後の課題

全体講評 (14:00~14:10)

島根県教育庁学校教育課長補佐 川津啓義先生

記念演奏 (14:10~14:35)

金管バンド部 5・6年生

指揮 勝部 恵美子

・セレブレーションアンドダンス

スウエアリレンジェン 作曲

・小さな街のカーニバル

斉藤 優子 作曲

真島 俊夫 編曲



講演 (14:35~15:45)

演題 「豊かな文化を創造する音楽教育」

講師 文部省初等中等教育局小学校課 教科調査官

金本 正武 先生

どのような活動の場が文化

感じ方  
考え方

一人の多岐  
言語・希望

親子あそび、子どもい  
こづき、こどもい

地域の中にある学校  
親と教師の関わり  
教師(活動)の関わり

音楽教育の目的

誰に直接体験学習

① 音楽のすばらしさを音楽活動を通して感じること (活動を通じて)  
自分の音楽を表現する過程を大切にする  
とんがりの音楽を聴いてほしいから、常にわが校では  
(5,6年生を2子目 ← 3,4年生の子目とわが校でわが校)

② 自分の生活を豊かにするために基礎基本を身につけよう  
形質化した知識は必要ない  
ものを順番に教える  
卒業まで、これだけの子の音楽活動の場を心して

③ 子どもを再創造 (表現) 再現 活用を促す  
④ 時代地域をこえていけるように可能にしていく。(文化)

課題を一つ一つ 課題解決を促すように音楽を  
活用

曲をつくり → 文化の  
うたが子

トランプの音楽

・お 礼 八雲村立八雲小学校 校長 森 泰

・全員合唱 (ママさんコーラスとともに) 指揮 勝部恵美子

大げさな道程 ← 自分かみ之子 (W2 教師) のせい

児童教育の足跡 (表現活動の中の様子)

- ・ 教壇 どのあたりに大切な水あき → 応用かた
- ・ 感受をいう指導過程の組み用意可

頭声の発声

その子の声の中の心と響き声 その子かみと思う声

表現 ← 適格の表現 ← その子かみの表現 (意味) 表現の心まか本音 (かみかみかみかみ)

創造的な表現 ← 表現の心まか本音 (かみかみかみかみ) いい日旅立ち (かみかみかみ)

雪解け真近の 北の空に向かい  
過ぎ去りし日々の 夢を叫ぶとき  
帰らぬ人たち 熱い胸をよぎる  
せめて今日から一人きり旅に出る  
ああ日本のどこかに  
わたしを待ってる人がいる  
いい日旅立ち 夕焼けをさがしに  
母の背中で聴いた歌を道連れに…

岬のはずれに 少年は魚つり  
青い芒すすきの小径を 帰るのか  
わたしは今から 想い出を創るため  
砂に枯木で書くつもり “さよなら”と  
ああ日本のどこかに  
わたしを待ってる人がいる  
いい日旅立ち 羊雲をさがしに  
父が教えてくれた歌を道連れに…

ああ日本のどこかに  
わたしを待ってる人がいる  
いい日旅立ち 幸福しあわせをさがしに  
子供の頃に歌った歌を道連れに…

活動日記学習帳

- ① 子どもの心と活動と可なり
- ② つまきにやさしくかかれ
- ③ 具体的な資料を提示する
- ④ 読教指導 授業計画から